

# 2020年度 第11回 学生チャレンジ企画

SDGsに関する活動、社会貢献、国際交流、大学の活性化など、  
学生の取り組みを大学が応援し、サポートする制度です。



**募集期間** 4月上旬～5月中旬

**応募資格** 本学に在籍する学生(学部生、大学院生、別科生)  
個人でもグループでも応募できます

**採用** 5件程度を予定  
(企画に応じて活動資金が支給されます)

※募集説明会の日程は、「Takudai Portal」でご確認ください。

お問い合わせ先  
文京キャンパス広報室  
**TEL.03-3947-7160**  
E-Mail: web\_pub@ofc.takushoku-u.ac.jp

<http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp>



10th Anniversary  
2019年度  
第10回

# 学生チャレンジ企画 実施報告書



拓殖大学は創立120周年を迎えます



**グループ部門**  
軽視はダメ!  
日本での就職  
鄭・佐藤ゼミ連合  
P3

**グループ部門**  
当たり前って  
アタリマエ!?  
～インバウンドビジネスを  
通しての異文化理解～  
鄭ゼミナールAチーム  
P5

**グループ部門**  
ハラルビジネスを通して  
発信する食・文化  
鄭ゼミナール3年Bチーム  
P7

**グループ部門**  
OMOTENASHI  
T-girls Presents  
～輝く拓大レディ～  
OMOTENASHI T-girls  
P9

**グループ部門**  
地域と学生が協働する  
六次産業化プロジェクト  
関ゼミナール 大津島チーム  
P11



**グループ部門**  
「拓大マルシェ」で  
高尾地域を活性化!  
徳永研究室(道の駅チーム)  
P13

**グループ部門**  
笑って学ぼうSDGs!  
石川ゼミナール  
P15

**グループ部門**  
地方創生プロジェクト  
IN山梨  
～モモとブドウで繋ぐ未来～  
山梨プロジェクトチーム  
P17

**グループ部門**  
八王子市館ヶ丘団地の  
自治会を支援する  
デザインプロジェクト  
CDS  
(Community Design Supporters)  
P19

**個人部門**  
協働を目指した  
日本語教育の実践と支援  
～モンゴルで日本人大学生と  
モンゴル人高校生が1か月交流する  
日本語夏期講習を舞台に～  
塚原 彩佳  
P21

**アイデア部門**  
P25



学生チャレンジ企画は創立110周年を記念して、2010年にスタートしました。この取り組みは社会や地域貢献、国際交流、ボランティア、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行っている学生をサポートするものです。

第10回となる2019年度は、従来のグループ部門に加えて個人部門を新たに設けました。40件の応募があり、書類選考及びプレゼンテーション選考の結果、10件の企画が優秀企画に選ばれました。

また、第10回を記念してアイデア部門を設け、52件の応募があり20企画が入賞となりました。

この実施報告書は、採択された企画を実行した学生たちの約1年間にわたる活動の集大成です。ぜひ、拓大生のチャレンジ精神に触れてみてください。

## グループ部門・個人部門 スケジュール



プレゼンテーションの様子  
応募全40件のうち15団体と個人1名が第2次プレゼン審査に進みました。



採択通知授与式  
各団体の代表者が活動への決意表明をしました。

## 講評 第10回学生チャレンジ企画を振り返って

拓殖大学副学長 学生チャレンジ企画実行委員長 潜道 文子



学生チャレンジ企画は、拓殖大学の創立110周年を記念して、2010年にスタートしました。この取り組みは、学生による社会貢献や地域貢献、国際交流、ボランティア、大学の活性化につながる活動などを、大学がサポートする試みです。今年度は、第10回を記念して、これまでのグループ部門に加え、一人で応募できる個人部門を設けました。

さらに、これらの他に、今年度はアイデア部門が設置されました。これは、国連全加盟国が2030年までに達成を目指す、世界を変えるための17の目標「SDGs」の観点から、「大学が魅力的になるような活動・モノ・事柄」に関する企画、および「大学を自慢したくなるような活動・モノ・事柄」に関する企画を提案する部門です。

今年度は、グループ部門・個人部門では、合わせて40件の応募がありました。過去最高といわれた昨年度の34件を超える応募があったこととなります。そして、第1次選考の書類審査と第2次選考のプレゼンテーションを経て、最終的に10件の企画が採択されました。各企画の計画に沿って活動が行われた後、10月の紅陵祭においてワークショップ活動報告がなされ、その後、12月7日の成果発表会においてプレゼンテーションが行われました。

また、アイデア部門には52件の応募があり、第1次選考の書類選考の結果、20の企画が入賞となりました。12月7日には第2次選考であるプレゼンテーションが行われました。

本報告書では、今年度採択されたグループ部門・個人部門の10企画の実施スケジュール、実施内容と成果、会計報告、反省点を示しております。成果については、どの活動も素晴らしいものだと感じましたが、中でも、CDSの八王子市館ヶ丘団地の自治会を支援するデザインプロジェクトは、その成果物の完成度も高く、見事、チャレンジ大賞を獲得しました。その他、チャレンジ賞(3企画)、奨励賞(2企画)を受賞したチームについても、活動を通じてチームメンバーの学生たちの大きな成長がみられ、審査員より高い評価を得ました。

その一方で、反省点も出されました。想定外の事態への対応、適切な要員配置、スケジュール調整の難しさなどの面で、更なる努力が必要であるとの指摘がなされた企画もありました。

その他、本報告書には、アイデア部門のアイデア賞(3企画)、ユーモア賞(2企画)、クール賞(1企画)、入選(14企画)についても掲載されております。この部門でも、学生たちの大きなチャレンジをみることができ、また、SDGsのマインドに根差した学生たちの大学や後輩たちへの熱い思いを感じることができました。

最後に、お陰さまで、今年度も学生チャレンジ企画を盛会裏に終了することができました。これも親身に学生たちをご指導頂いた教職員の皆様、また、企画を積極的に受け入れて下さった行政機関、企業、各種団体のご協力のお陰と深く感謝しております。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。





# 軽視はダメ! 日本での就職

団体名 鄭・佐藤ゼミ連合

代表者 商学部 経営学科 3年 姜 若琦 (キョウ ジャクキ)

参加メンバー人数 16名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

## 実施スケジュール

2019年4月8日~10月20日

- 4月8日 鄭先生を講師に招き、約30名の留学生に向けて、ワークショップを開催した。
- 4月12日 留学生の就職認識アンケート調査を実施。
- 5月8日 回収した第一回アンケートのデータ分析、発見された問題点を就職課に伝え、共に改善を目指す。
- 6月9日 株式会社ACCESS(人材派遣会社)訪問、第一回ワークショップに講師として招きたい。
- 6月25日 メンバー会議、第一回ワークショップの具体的なプロセスを決定、ポスターのデザインの作成。
- 6月26日 第一回ワークショップを認知してもらうため、ポスターなどを掲示。
- 7月3日 メンバー会議、第一回ワークショップの具体的なプロセスを確認、第二回アンケート作成。
- 7月9日 ネットスター68日本語会話CEO齊さんにプロセスと講演内容を決定。
- 7月15日 第二回アンケート回収、データ分析を実施。
- 7月16日 就職課と打ち合わせ。第二回アンケート調査の結果を就職課に報告。
- 8月25日 メンバー会議、第二回ワークショップの内容を話し合い。
- 9月3日 メンバー会議、宣伝方法を提案。
- 10月4日 企業訪問(オリンパス)訪問、第二回ワークショップに講師として招きたい。
- 10月9日 メンバー会議、第二回ワークショップの具体的なプロセスを決定、ポスターのデザインの作成。
- 10月10日 第二回ワークショップを認知してもらうため、ポスターを掲示。
- 10月11日 第二回ワークショップ具体的なプロセスを確認、第3回アンケートを作成。
- 10月14日 第二回ワークショップを開催した。
- 10月20日 メンバー会議、三回のアンケートまとめ、結果を分析する。



メンバー会議。第一回ワークショップの内容話し合い宣伝方法の提案。

## 実施内容・成果

### 【イベントとして】

私たちは、実施したアンケート調査と就職課からのデータに基づき、就職課の利用方法の紹介と留学生の自己認識力を高めるなどといった機能を持つワークショップを設計し、二回開催しました。

それを宣伝するために、過去にない「多言語のポスター、ビラ、ビデオ」などの宣伝方法に工夫を凝らし作成した上、HP、学生ポータルと中国人、ベトナム人留学生会のようなチャンネルを通して、本校のE館とB館の各階段の掲示板にも貼り付けました。

そうすることにより最初のワークショップに出席してくれた留学生が69名となり、大規模なワークショップを後藤新平・新渡戸稲造記念講堂にて約2時間開催できました。また中国大使館教育処、ネットスター会社、ACCESS株式会社人事部、拓殖大学商学部からの5名ゲストスピーカーが留学生の就職状況や日本での起業方法、日本で就職するメリット、帰国する場合は準備すべきもの(中国人留学生向け)など、日本での就職のみならず留学生の進路について全面的にアドバイスし、根本から留学生の持つ懸念を払拭することを試みました。

二回目のワークショップでは目的が前回と異なり、ターゲットを日本で就職する留学生に絞り、就職課の利用方法と自己分析に焦点を置き、今後日本での就職を希望する留学生がもっと積極的に就職課の活動に参加できるように影響をもたせるため、内容とゲスト選びに創意を加え、講師が講演する形だけではなく、



第一回ワークショップを開催する。



メンバー会議。第二回ワークショップの内容話し合い宣伝方法の提案。

多様なゲームと心理テストという形式に設計し、就職課の片山さんと社員教育の現場で活躍しているオリンパス人事部の別所氏をゲストに招き、その結果、既に日本で就職することに決定した留学生28名が出席してくれました。当日、配ったアンケートのデータを見れば、「就職課の利用方法が以前より明確になった」という答えが17人であったと、自己認識力を高めたと感じていると答えた人が12人でした。

以上を踏まえて考えられる効果としては最初のワークショップによりゲストをチャンネルに拓殖大学の留学生に対して就職サポート体制をアピールする事ができ、そして本校と中国大使館との関係も学生の手によって、より一層親密度が上がったと確信しています。また二回目のワークショップにより、就職課の利用方法を紹介するにつれ就職課と外国人留学生の相



第一回ワークショップの準備。宣伝チラシ、ポスターなど。



第二回ワークショップを開催する。

互理解を促進させることも、学内の就職説明会への関心・意欲を高めることができました。従って今後の留学生就職率が上がっていくだろうと私たちは信じています。

「留学生が自分の進路についてどう考えているか」、「留学生が就職課に対しての理解はどのレベルに達しているか」、「私たちが主催したワークショップがどれほど役に立つか」という3つの問いに対し、アンケート調査を3回実施しました。そして抽出したデータを土台にレポートを作成し、就職課に提出しました。

最初のアンケート調査は「留学生が自分の進路に関していかに考えているか」つまり「目標が明確な人」と「まだわからない人」それぞれの比率はどの程度を占めるかを知るため、アンケートの構成を根本的な質問から中心に据えました。そこから獲得したデータを生かし、最初のワークショップの内容とゲスト選びの参考資料になりました。

二回目のアンケートを最初のワークショップを開催した後に配布し、フィードバックとして役に立ちました。それに加え、最後のワークショップのデザインにも繋がりました。

そして二回のワークショップを通して留学生が就職課と自分自身に対しての理解度はどの程度が上がったかを把握するため、二回目のワークショップの後に出席した留学生に最後のアンケートを配りました。

合計三回のアンケート調査により、留学生と就職課の相互理解度、留学生の自己認識力についてのデータベース作りができ、今後就職説明会を開く際に参考資料として役に立つと私たちは考えています。

## 活動を終えて

私たちはこの企画活動を通して、2つの反省点があります。1つ目は、役割分担です。私たちのチームメンバーのなかでは日本人学生だけでなく、留学生もいます。そのため、企画活動を実施する上で物ごとに対する考え方や処理方法の違いを感じる場面が多々ありました。はじめは、日本人学生と留学生を別々に役割分担していましたが、進捗にずれが生じたり、文化や習慣によるトラブルも生じたため、日本人学生と留学生混合に役割分担をすることに決めました。そうしたことで、今までつまずいていた問題点に解決策を見つけ出したり、新しいアイデアを見つけ出すこともできました。

2つ目は、企画活動を進めていく上での社会マナーです。私たちは本企画活動を行う上で、日本における社会マナーについて、十分に理解をしていませんでした。その結果、ワークショップを実施する際に、学校側と実施内容におけるアナウンス放送やポスター掲示に関する交渉を行ったとき、日本における社会マナーをしっかりと理解していなかったため、誤解が生まれ、学校側に迷惑をおかけしました。このことにより、私たちはスケジュールの調整

や管理においてもスムーズに行うことができず、ワークショップを実施するのに苦労しました。

この企画活動を通して、私たちは異文化理解や社会マナーの大切さ、一つのワークショップを開催することができても、参加者を集めることの大変さを実感しました。また、異文化を理解しあうことで生み出した新しいアイデアや解決策もたくさんありました。このように、異文化理解をするうえで成功できた企画活動だと思います。そして、企画活動を実施する上でチームワークの団結力とスケジュールの管理・交渉力はとても重要なことだと感じました。私たちは皆同じ目標に向かって団結しながら、企画活動を行ってきました。しかし、交渉力と社会マナーに欠けていたため、予定していたスケジュールに支障が出ていたりしていました。今後このような状況になる前にしっかりメンバーに相談をし、的確な解決方法を見つけ出していきたいと思います。最後に、今回の企画活動を通して学んだことをこれからの学内活動にも生かしていきたいと思っています。

## 会計報告

活動資金 150,000円		支出総額 151,853円
内訳		
項目	小計	
備品費	ポータブル ボイスレコーダー	24,936円
消耗品費	横断幕 本	2,086円
	カラーペン ノートのり ファイル ハサミ テープ A4用紙 クリップ ホチキスなど	12,872円
印刷製本費	ポスター チラシ	8,046円
会合費	会社訪問 手土産 謝礼金	62,568円
	ドリンク 茶菓子	17,295円
交通費	会社訪問 メンバー会議	24,050円
		合計 151,853円
その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】		
交通費	ガソリン代	1,853円
		合計 1,853円

## ▶ ホームページ掲載

○実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>

○学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo8.html>



# 当たり前ってアタリマエ!?

## ～インバウンドビジネスを通しての異文化理解～

団体名 **鄭ゼミナールAチーム**

代表者 商学部 国際ビジネス学科 3年 鈴木 みなみ

参加メンバー人数 8名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

### 実施スケジュール

2019年6月24日～10月20日

- 6月24日 ①「手を使った数字の表し方」撮影・編集
- 7月15日 ②「食後の片付けの違い」  
③「食べ方の違い」撮影・編集
- 7月18日 ④「許可なしに人の写真を撮る」撮影・編集
- 8月4日 ①「手を使った数字の表し方」投稿
- 8月20日 ⑤「喫煙所について」撮影・編集
- 9月13日 ⑥「ゴミの分別」撮影・編集
- 10月9日 ⑦「会計の支払いについて」撮影・編集
- 10月13日 ②「食後の片付けの違い」④「許可なしに人の写真を撮る」⑤「喫煙所について」投稿  
※上記「」内は動画タイトル

### 実施内容・成果

すべての動画の撮影を始める前に、留学生への聞き込みや歴史の勉強を通して、文化的背景について学習した。また、ネットや友人の情報だけでなく、実際に上海で日本と中国の文化の違いを確認した。

#### 【動画投稿までの流れ】

事前の調査をもとに、動画の流れを中国からの留学生を含めた話し合いで決める。

購買や学生食堂で撮影をする際は、事前予約を取る。

出演者や撮影者など、全ての動画での役割を分担し、撮影を始める。

撮影終了後に、使う場面の写真を選び、文章、字幕、説明文を話し合いで決める。

編集担当者が撮影した写真、字幕、説明文をもとに動画を作成する。

完成した動画をweibo、bilibili、instagramに投稿する。

#### 【それぞれの動画の内容】

##### ①「手を使った数字の表し方」

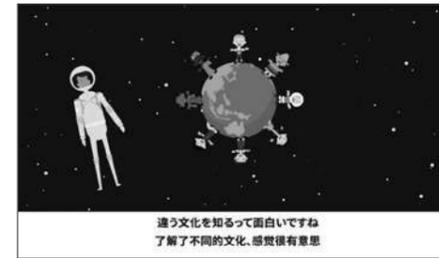
日本と中国では手を使った数の表し方が異なる。1~5は全く同じ表し方をし、6~10は日本では両手を使うが、中国では片手だけで表す。この違いについて、すべての表し方を撮影し比較した。

##### ②「食後の片付けの違い」

日本の飲食店では大体、返却口があり、食後は自分で食器を片付ける。しかし、中国の飲食店には清掃員がいるため、食後は食器を



動画のオープニングのアニメーションの一部



動画のエンディングのアニメーションの一部

そのままにする。その習慣から、来日中国人は食器を片付けることを知らないことがある。この動画内では、その文化の違いを日本人が中国人に教えているように作成した。また、中国の文化の説明も述べた。

##### ③「食べ方の違い」

日本では一人ひとりの食事が分かれている。中国では大皿におかずが盛られて出され、それを自分のお椀に盛って食べる。それが日本人には食べ物をぐちゃぐちゃに混ぜて食べているように見えてしまう。この文化的差異を理解してもらうために、この動画内では日本食を食べている中国人に日本人が食べ方を教えるように作成した。また、中国の文化の説明も述べた。

##### ④「許可なしに人の撮影をする」

訪日外国人の中には、着物を着た女性や店内の様子を撮影する人が多いため、写真に写りこんでしまう。日本人は許可なしに撮影されることをプライバシーの面で気にする人が多い。中国ではお店の宣伝にもなるため撮られることを気にしない人が多い。この動

画内では、その違いを日本人が中国人に許可を取るよう促すよう作成した。また、中国の文化の説明も述べた。

##### ⑤「喫煙所について」

日本ではタバコは喫煙所で吸うよう決められている。中国では屋外ならどこでも吸うことができる。そのため、来日中国人は歩きタバコをしてしまう。この動画内では、この違いを日本人が中国人に教えてあげるように作成した。また、中国の文化の説明も述べた。

##### ⑦「会計の支払いについて」

日本では現金を使う人が多いため、レジにはキャッシュトレイが置かれている。中国はキャッシュレス化が進み現金を使う人がほとんどいないため、キャッシュトレイは置かれていない。そのため、使用用途を知らない人がトレイの外にお金を置いてしまう。それを日本人が嫌がらせをされたと感じてしまう。この誤解をなくすために、この動画では日本人が中国人にキャッシュトレイの使用用途を教える動画を作成した。また、中国の文化の説明も述べた。

### 活動を終えて

活動を経て感じたことがいくつかある。一つ目は、異文化理解が深まったことだ。私たちは動画を作成するにあたり、まずはそれぞれのテーマに該当する中国の文化を調べた。それに加えて、同じグループの中国人留学生から、現地の最新情報なども取り入れて動画を作成した。この過程において、様々な発見や驚きがあり、中国の文化に関する知識を深く身につける事ができた。この知識は、今後私たちがグローバル化が進む世界で仕事をしていく上で、役に立つ知識になると思った。

二つ目は、計画通りに活動していく事の難しさだ。当初、私たちは二週間に一度のペースで動画を作成し、投稿をしていく予定だったが、テーマによって制作に時間がかかったり、撮影場所の許可を貰えずに断念したテーマもあった。もっと細か

く計画を練ったり、計画が変更になった際の対策を事前に考えたり、予備日を備けたりするべきだったと反省している。

三つ目は、対象としていた人たちから意見をもらうことができなかったことだ。私たちは来日中国人と接客業で働く日本人がこの動画を通して、双方の文化を理解することを活動の目的としていたが、意見を聴けなかったことで、目的を達成できていないのが確認することができなかった。

四つ目は、動画の拡散ができなかったことだ。その理由として、動画の投稿が遅れてしまったことと、拡散力がある人と上手く連携が取れなかったことが挙げられる。これらは、全面的に中国人留学生に頼ってしまったことが原因だったため、自分たちから積極的に活動できたと感じた。

### 会計報告

活動資金	30,000円	支出総額	8,566円	残金	21,434円
内訳	項目	備考	小計		
備品費	動画編集ソフト代	動画編集用	5,500円		
消耗品費	クラフト紙	紅陵祭展示	396円		
消耗品費	タバコ	小道具	500円		
印刷製本費	写真	スクラップブック	1,380円		
会合費	唐揚げ定食・生姜焼き定食	撮影用	790円		
			合計	8,566円	

#### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo1.html>



撮影風景 様々な角度からカメラを向け、伝えやすい写真の撮り方を考えています。



「手を使った数字の表し方」の一部 購買で撮影を行いました。



「食事の仕方について」の一部 学生食堂で撮影を行いました。



「食後の片付けの違い」の一部



「許可なしに人の写真を撮る」の一部 E館9階のラウンジで撮影を行いました。



「喫煙所について」の一部 大学の屋上テラスで撮影を行いました。



「会計の支払いについて」の一部 購買で撮影を行いました。



# ハラルビジネスを通して 発信する食・文化

団体名 **鄭ゼミナール3年Bチーム**

代表者 商学部 国際ビジネス学科 3年 平 鮎実

参加メンバー人数 7名

2019年度(第10回) 学生チャレンジ企画 **実施報告書**

## 実施スケジュール

2019年6月1日～10月20日

- 6月1日 学生チャレンジ2次選考
- 6月5日 ジャパンハラルコープ/Japan Halal Corpの代表取締役である中村直子さんにハラルの食文化について話を伺う。
- 6月19日 イスラム研究所所長である森伸生教授にハラルに対する基礎理解、和式ハラルを提供することへの助言を頂いた。
- 6月23日 第一回試作を行う。
- 6月26日 ジャパンハラルコープ/Japan Halal Corpの代表取締役である中村直子さんにレシピの改善点を伺う。
- 6月27日 SEKAI CAFÉ-Asakusa-金子太朗さんと一回目の打ち合わせを行う。
- 6月29日 第二回試作を行う。ジャパンハラルコープ/Japan Halal Corpの代表取締役である中村直子さんに料理時のアドバイスを頂く。
- 7月4日 SEKAI CAFÉ-Asakusa-金子太朗さんと二回目の打ち合わせを行う。
- 7月6日 第三回試作兼料理提供を行う。本校の留学生からアドバイスを頂く。
- 8月13日 SEKAI CAFÉ-Asakusa-にてコラボした「筑前煮」を注文した方を対象にアンケートを実施。
- 8月23日 第四回試作を行う。
- 8月26日 「東京2020みんなのフードプロジェクト 日本の「食」をアスリートへ届けよう!あなたのメニュー募集キャンペーン」に私たちが考案した「ナツメヤシの大福」を応募した。
- 8月31日 モスクに掲示する料理提供の募集ポスターを作成。
- 9月22日 第五回試作を行う。料理提供時に作る3品(餃子・お好み焼き・大福)と同時に紅陵祭で出店する「ピサンゴレン」も試作を行った。
- 9月28日 本学学生を対象に料理教室を開催。
- 10月18～20日 紅陵祭で「ピサンゴレン」を販売。

## 実施内容・成果

### 【料理の試作について】

「和式ハラル」を提案するにあたって、お好み焼きと餃子と大福のレシピ考案から活動は始まりました。まず、調理器具が豚を使用している可能性があるため全て新しいものを買いました。

お好み焼きはソースにムスリムの方が好きなチリソースを使用し、スムーズに作ることが出来ました。餃子と大福にとっても苦戦しました。餃子は本来豚肉を使用しますが、代わりにマトンと鶏肉の二種類の餃子を作りました。第一回から第三回試作まではマトンの独特な匂いを消すためにカレー粉を使用していましたが、留学生からのアドバイスを頂いた結果、マジックソルトを使用することになりました。マトンの匂いが苦手な日本人も多く、抵抗もありましたがしっかり匂いを消すことで、普段マトンを食べられない方も食べることが出来ました。鶏肉はあっさりしすぎてしまうのでシソを使い、味にアクセントを付けました。大福は最初皮をむき、種を取り除いたナツメヤシをそのまま餡子に包んでいましたが、手間がかかることと食感が良くないということで最終的にナツメヤシシロを手作りし、餡子と生地で包みました。また、生地に使用していたグラニュー糖には製造過程で豚の骨が入ってしまうためきび糖を使用し、オリジナルのあるものを考案することが出来ました。日本人とムスリムの方の口に合うようにするにはどのようにすべきか、メンバーで相談しながら計5回の試作を行った結果、「和式ハラル」を完成させることが出来ました。

### 【料理教室】

9月28日(土)に行った料理教室では本学留学生4名、大学院生2名に参加していただき、料理を一緒に作りながら工夫した点などを説明しながら行いました。大人数でコミュニケーションが取れる餃子を作っているときに、自然と留学生と日本人との間に会話が生まれ、交流することができました。また、参加して下さった大学院の方から終わった後にメールをいただきました。その方は、イスラム



ムスリム(本学学生)の方々に料理のアドレスとご指摘をいただきました。

教徒になりたてで、豚肉やアルコールが制限され、日本で食べられるものが減ってしまい残念に思っていたときにこの料理教室でハラルフードの可能性を感じることができたと嬉しいお言葉をいただきました。

### 【紅陵祭での出店】

紅陵祭では東南アジアのお菓子である「ピサンゴレン」を販売しました。発案の理由は学生チャレンジの企画発案時にメンバーで東南アジア料理店に行った際に食べたピサンゴレンがとても美味しく日本人に親しみやすい味だと感じたからです。試作の際に本学留学生にアドバイスをいただき、バナナに付ける粉は本場で使われているピサンゴレン用の粉にし本場の味に近づけました。また本場ではチーズをかけて食べるとアドバイスをいただき、販売時にはトッピングとしてチーズ、さらにメンバーで考えたトッピングとしてチョコレートソース、シナモンシュガーの3種のうちどれかを選べる形で販売しました。

### 【ご協力いただいた方々】

イスラム研究所所長の森教授にはハラルに対する基礎理解や和式ハラルを提供することについての助言をいただきました。ジャパンハラルコープの代表取締役である中村直子さんには料理の監修を行っていただきました。お好み焼き粉は製造過程においてハラルの基準を満たしていないことやおたふくソースには豚が使用されていたり、マトンの臭いの消し方など様々なアドバイスをいただきました。東京ジャーミイのモスクの方々には和食に関しての

アンケートを行い、その結果を和式ハラルのレシピ考案の際どんなものが材料に入れたら口に合うのかと参考にさせていただきました。調味料なども東京ジャーミイのモスクで買い、できるだけムスリムの方が馴染みやすい味に仕上げました。大塚のモスクの方々には11月に行う予定の料理提供の参加募集のポスターを掲示していただきました。SEKAI CAFE-Asakusa-の金子太朗さんとは打ち合わせを重ね、ムスリムの方でも食べられる「筑前煮」を共同開発し期間限定で販売していただきました。料理提供に参加していただいた本学の留学生からは料理に対する改善点などのアドバイスをいただき、料理の改善に活かしました。また9月に行った料理教室では本学留学生4名、大学院生2名に参加していただき、料理を一緒に作りながら工夫した点などを説明しながら行いました。



料理教室を行いました。本学留学生4名、大学院生2名に参加していただきました。



学生チャレンジ中間発表の際に使用した資料です。



紅陵祭で出店した東南アジアのお菓子『ピサンゴレン』の写真です。

## 活動を終えて

**苦労した点** 宗教については浅かな状態でのスタートだったため、料理提供や料理試作の前に知識理解から始めました。その際に、様々な方へ協力をお願いするにあたり、アポイントメント、スケジュール調整に苦労しました。全員揃ってお話を伺い基礎理解に励むということは、スケジュール的に難しく数名での参加でした。また、料理内容も自分たちが考えたもの通りにはいきませんでした。何度も挫折、新しいことを始める大変さを痛感しました。

カフェとのコラボレーションでは、社会人と学生の違いを感じ、担当したメンバーは苦労しながら企画を進めてくれました。今まで企業の方と仕事の点で交流する機会がなく、社会のルールや仕事をする上での難しさなどが分かりませんでした。カフェにアポイントメントを取る際も、カフェ側の情報を確認しないままお願いしてしまい、指摘されることが多々ありました。カフェも多くの仕事をしている中の一つが私たちとのコラボレーションであり、スケジュール調整に苦労しました。また、少ない時間の中で一つ一つ決めていかなければならない為、効率性と判断力を必要としました。さらに、ポスターなどの広告を制作していましたが、カフェに連絡する時間が遅く、ポスターを掲示していませんでした。そのため、無駄な労力となってしまいました。社会人の基礎である「ハウレンソウ」の大切さを学びました。

料理内容では、何を作るか、どのように工夫したらムスリムと日本人の口に合うかを考えることに苦労しま

した。私たちは食事会だけでなく、料理教室も企画していた為、「みんなで楽しく作れる料理」にも気を配りながら料理内容を考案しました。一回目の試作では、食感や味付け、臭みなど様々な問題点が上がりました。二回目の試作ではムスリムの方を招待し、口に合うか、味付けはムスリム好みになっているかなど聞き、アドバイスをいただきながら試行錯誤を繰り返しました。料理教室までに、今までの問題点を一つでも改善できるように、6月から毎月試作を重ねました。「今回の料理教室は勉強になった。毎月開催してほしい。」という褒め言葉の言葉をいただき、とても良い機会になったと感じました。

**感想** 学生チャレンジに応募すると決まってから活動が終えるまで、本当にタイトスケジュールで初めてのことに戸惑いながらも一つ一つの企画を進めてきました。実際グループに分かれて活動することが多かったですが、その中で起こった問題や今後の課題に対し全員で考えることでチームとして少しずつまとまり、協調性を高めることができました。苦労しながらゼロからイチを成し遂げることができたということは、自分たちの自信に繋がったと思います。指摘されたことも含め、活動を通して経験してきたことは貴重なもので、今度社会に出た時どこかの場面で必ず役に立つものだと思います。新しいことに挑戦することは、多くのものを収穫できる良いチャンスで、大きく自分自身を成長させてくれることを学びました。約半年間、教授や企業の方をはじめとする協力して下さった方々にはとても感謝しています。ありがとうございます。

## 会計報告

活動資金	100,000円	支出総額	100,000円
------	----------	------	----------

内訳			
項目	備考	小計	
賃借料費	公益財団法人 文京アカデミー	5回使用	13,100円
備品費	SANTOKU, SERIA 等	試作や食事会での調理器具等	24,532円
消耗品費	SANTOKU, SERIA 等	試作や食事会での食材費	37,068円
賃借料費		紅陵祭での模擬店レンタル品	25,300円
合計			100,000円

### その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

項目	備考	小計	
消耗品費	SANTOKU, SERIA 等	食材費	6,521円
印刷製本費	ローソン	紅陵祭、中間発表で使用した展示品の印刷費	480円
備品費	METORO, 世界堂, SERIA 等	紅陵祭での模擬店出店費	15,800円
合計			22,801円

### その他活動から得た収入【援助金や売上金】

項目	備考	小計	
紅陵祭で出店した模擬店での売り上げ	不足金の補填、今後の活動での資金として使用	59,840円	
合計			59,840円

## ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo6.html>



Japan Halal Corpの代表取締役である中村直子さんに料理の監修をしていただきました。



# OMOTENASHI T-girls Presents

## ～輝く拓大レディ～

団体名 **OMOTENASHI T-girls**

代表者 政経学部 経済学科 2年 小谷 汐音

参加メンバー人数 24名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

### 実施スケジュール

2019年6月2日～10月20日

- 6月2日 学内女子学生向けアンケート作成
- 6月3～14日 学内女子学生向けアンケート実施
- 6月17～28日 アンケートを集計
- 7月4日 取材内容作成、訪問先企業決定
- 7月11日 学報TACT8.9月合併号企画で株式会社JTB 遠藤先輩へ学内にて取材
- 7月5～11日 電話応答を各自作成、調整
- 7月12,18日 マナー講座実施(マナーの基本、電話応対、言葉づかい、身だしなみ)
- 7月16～19日 訪問予定企業へ電話にてアポイント実施
- 7月20日 株式会社日経エージェンシー 菅野先輩、医療法人社団同友会 櫻井先輩、神奈川県警察 村山先輩 文京キャンパスにて3社合同取材
- 7月22日 株式会社こうゆう 花まる学習塾 谷田川先輩訪問取材
- 7月30日 ミーティング(進捗確認)
- 8月14日 株式会社エイチ・アイ・エス 楊先輩訪問取材
- 8月17日 冊子原稿のひな形作成
- 8月22日 株式会社りそな銀行 今井先輩、多摩信用金庫 鎌倉先輩訪問取材
- 8月23日 株式会社富士通SSL 小松先輩訪問取材
- 8月31日 冊子原稿作成
- ～9月12日
- 9月12日 ミーティング(冊子原稿の確認・その他内容の作成)
- 10月10日 ミーティング(紅陵祭の展示物作成)
- 10月17日 紅陵祭の展示物準備
- 10月18～20日 紅陵祭



7月12日松原学生主事にマナーを指導していただいている様子



7月12日お辞儀の角度について指導していただいている様子

### 実施内容・成果

#### 【趣旨】

2018年夏、OMOTENASHI T-girlsとしてオープンキャンパスに参加をさせてもらいました。その際、保護者の方から女子学生の就職状況について聞かれたのですが、的確な答えを伝えることができませんでした。そこで、女子学生満足度向上のために活動しているOMOTENASHI T-girlsが女性に特化した情報を調査し、就職状況や就職活動時のことなどを冊子にまとめて発信していこうと考えました。また、拓殖大学は男女共学ではあるが、女子学生が少ないのが現状であるため、この企画を進めれば女子高校生などにも興味を持ってもらえるのではないかと考え企画を始めました。

#### 【訪問までの準備】

初めに、企業を訪問するにあたり、マナーを知らなければ訪問に行けません。そのためT-girlリーダーである松原学生主事をお願いをし、マナー講座を開いていただきました。姿勢、お辞儀の仕方、アポイントの取り方など社会人としてのマナーを教えてくださいました。また、女子学生に向けての活動であるため、『現役の女子学生の就職への考えや先輩方へどのような事を取材して欲しいか』のアンケートを実施しました。アンケートを実施し分かったことは、私たち同学年は就職への意識は低く、不安をかかえている人が多いことがわかりました。また、回答いただいた中からいくつかピックアップをし、取材時の内容を考えていきました。

次に企業へ訪問をさせて頂くためのアポイントを自分たちで取りました。まずは一人ひとり電話応答を考えて、メンバーで共有し最善の応答を作りました。企業の採用担当に電話をかけるという初めての経験でしたので、上手く電話で要件を伝えられるのか、多くの不安もありました。学生が主体となり行っている企画であるため、簡単には受け入れてもらえず学生チャレンジ企画の内容から説明を行い、企画書の提出を求められる企業も多くありました。また、なかなか返事をもらえず苦勞をした部分も多かったです。その中でも検討し取材を了承してくださった企業と、電話やメールでやりとりを行い、とても素晴らしい社会経験をすることができました。

#### 【先輩方からのアドバイス】

(りそな銀行) 就職活動は、早く行動するべき。就職課に足を運んでみてほしい。  
(神奈川県警察) 現状に満足せず、様々なことに挑戦してほしい。  
(日経エージェンシー) 興味・関心があるものには大学生のうち積極的に取り組んでほしい。  
(こうゆう(花まる学習塾)) たくさん経験し、何かに打ち込んでほしい。  
(エイチ・アイ・エス) 仕事は自己成長に繋がるので一度は就職してほしい。  
(多摩信用金庫) 就職活動は早めの準備が大切。自己分析をして自分の軸を明確にして臨んでほしい。  
(同友会) 貪欲にチャレンジして、学生生活が『これで良かったな』と思えるように満足した日々を送ってほしい。  
(富士通SSL) 普段の自分が持っているものを大切に、それを一歩深めて武器するべき。今しかできないことを全力です。  
(JTB) やりたいことを突き詰めるエネルギーと楽しみながらチャレンジする姿勢をもってほしい。

#### 【訪問後】

7月中旬から始まった先輩方への取材訪問でしたが、9月に入り、取材も終了したので冊子作りに入りました。冊子を作るという初めての経験で取材の内容を分かりやすく、見やすく、そして女子学生や女子高校生に興味を持ってもらえるよう考えて冊子作りに取り組みました。作り始めると、取材内容は出来上がっていても、その他に入れる情報の構成を考えなければならなかったり、冊子の原稿を先輩方に送り確認していただくと、多くの修正が入ったりして、冊子作りが順調に進まないこともありました。しかし、印刷業者の方



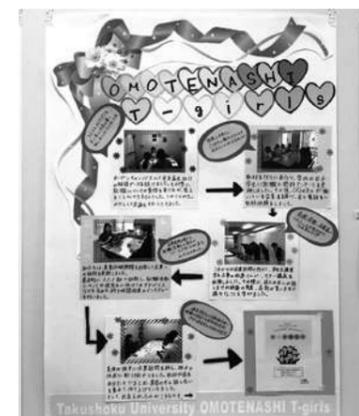
業者の方と冊子の細部等の打ち合わせの様子

と打合せをして、色合いや全体の構成など、手を加えてくださりとても素敵な冊子を作り上げることができました。以上の活動を通して、感じられた成果は大きく分けて2つあります。

#### 【成果】

1つ目はこの企画を行ったことで私たち自身の就職に対する意識が大きく変わった事です。インターンシップにも興味を持つようになり、積極的に自分から行動出来るようになりました。先輩方の現実的なお話を伺うことができたことによって、大学生活の送り方や就職課の利用方法などをリアルに感じる事ができました。そして、2年生のうちに活動することで、就職活動に対するイメージがわき、私たちが社会に出たときの事も考えるようになりました。また、先輩方からお話を伺って、問題なのは「やりたいことがない」ではなく、「何も行動していない」ということや、私たちにまだ「たくさんのチャンス」が転がっていて、「それに気づき挑戦をし、経験を積むことだ」と気付く事ができました。

2つ目は今年の紅陵祭の教室展示にて、この冊子を女子受験生や保護者の方に渡すことが出来、私たちの活動や大学に好感を抱いてもらえたように感じた事です。きっかけであった高校生の方や保護者の方々のニーズに応えられたかどうかはまだ始めたばかりで把握することは出来ませんが、イベント毎に本学の現役女子学生や女子高校生に配付をして、女子に特化した情報発信をしていきたいと思います。



紅陵祭ワークショップでの展示物。活動内容を簡潔にまとめた。

### 活動を終えて

活動を終えて感じたことは、ゼミナールではない私たちOMOTENASHI T-girlsが、企画を進めていく難しさを実感し、「自分から行動を起こさないと何も始まらない」と大きく感じることできた活動だったという事です。反省点は2つあります。1つ目は、ミーティングの回数の少なさと、ミーティングで話し合った内容を、メンバー全員で共有が出来なかったという点です。一人ひとり取り組み意欲や姿勢が違い、常にメンバーと意見を交わしながら進めていけばよかったと感じています。また、自分が担当している企業だけを把握するのではなく、全ての企業にメンバー全員で取り組んでいればもっと多くの情報が共有できたかと反省しています。

2つ目は、初めての企画ということもあり、試行錯誤で始めていきましたが、自分たちで決めたスケジュールがなかなか想定通りに進まず、臨機応変に対応することがとても難しかったという点です。余裕をもって企業へのアポイントを取ったりしていたつもりでしたが、実際は電話だけでは企画が通らず企画書を送付して、企業からの回答がすぐに届かない場合もあり、

スケジュールに影響しました。また、候補の企業は何社もありましたが、断られてしまうことも多く、粘らなかったことや次の企業をもう少し多く考えていたほうがよかったと反省しています。もう少し余裕を持ってスケジュールを立て、行動するべきだったと思います。この企画を通して、多くの事を得ることが出来ました。大学生2年生ではなかなか経験することのないビジネスマナーを学び、企業へのアポイントの取り方等を実践できました。また、企画を成し遂げるまでのスケジュール管理などを学ぶことが出来、自己成長に繋がりました。また、先輩方から頂いた言葉はとても貴重であり、私たちの意識を大きく変えることが出来ました。この経験を多くの人に発信できるように、来年もオープンキャンパスや紅陵祭に参加していきたいです。この活動がこれで終わりではなく、また違う業種・職種の先輩方を取材できるように後輩へ繋げていきたいと考えています。また、この企画を通してOMOTENASHI T-girlsの活動もより多くの方々に知っていただける機会を作れたのではないかと思います。

### 会計報告

活動資金 200,000円		支出総額 200,000円	
内訳			
	項目		小計
交通費	電車代		10,480円
会合費	企業への手土産代(8社訪問)		8,800円
印刷製本費	600部印刷 クラフト、コア株式会社利用、写真現像代 7枚		180,470円
消耗品費	色画用紙		110円
	切手代(三井住友銀行へ郵送)		140円
合計			200,000円
その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】			
印刷製本費	600部印刷 クラフト、コア株式会社利用		17,740円
合計			17,740円

#### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo4.html>



7月20日 日経エージェンシー、医療法人社団同友会、神奈川県警察の3名の先輩方との集合写真@拓殖大学文京キャンパス



りそな銀行へ訪問し取材をしている様子



# 地域と学生が協働する 六次産業化プロジェクト

団体名 **関ゼミナール 大津島チーム**

代表者 政経学部 経済学科 2年 花里 涼

参加メンバー人数 20名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

## 実施スケジュール

2019年6月1日～11月24日

- 6月1日 山口県離島青年会議 プレゼンテーション準備
- 7月6日 山口県離島青年会議参加 プレゼンテーション発表
- 7月7日 大津島視察案内補助
- 7月8日 圃場整備
- 9月1日～30日 島内実施作業計画/準備検討
- 9月27日～30日 圃場整備、商品開発
- 10月14日 ヤッチャバ市場の打ち合わせ
- 10月15日 紅陵祭の準備
- 10月18日～20日 紅陵祭
- 11月9日 ヤッチャバ市場 出店
- 11月22～24日 アイランダー2019参加



新商品考案会議の様子



カステラづくり



すだだいの畑の草取り

## 実施内容・成果

私たち関ゼミナールは、2017年の大津島ゼミ合宿をきっかけに、山口県周南市にある離島の大津島と交流するようになりました。大津島の超高齢化等の現状を目の当たりにし、何か島の特産品を開発することにより、若者を島に呼び込み、島の振興が可能になるのではないかと考えました。

### 【すだだいの植栽と畑の拡大】

島には「すだだい」という関東ではほとんど知られていない柑橘類の果樹があります。みかんの木だと、イノシシに食べられてしまいますが、すだだいは酢っぱすぎでイノシシも食べません。人手不足と獣害に苦しむ島にとって理想的な作物であると考えました。

私たちは3月に大津島内で耕作放棄地を借り受け、そこを開墾し苗木を60本植えていました。耕作放棄地を活用して徐々にすだだいの数を増やして、すだだい製品を開発し、それを関東でも売出そうというのが長期目標になっています。苗畑では、現在まで定期的に圃場整備や草刈りをしており、苗木はすくすくと成長しています。来年の2月には、いよいよ苗畑から一般の畑に移植する作業に入ります。これに成功すれば、さらに苗畑に次の苗木を植栽し、順次、すだだいの畑を拡張していく計画です。

六次産業化とは、ひとつの地域で生産・加工・販売まで一貫して行うことです。私たちは、耕作放棄地を活用してすだだいを生産し(一次産業)、それを商品に加工し(二次産業)、さらに知られざる柑橘類ということでその商品を首都圏で販売しよう(三次産業)と考えました。

### 【商品開発とボランティア】

8月4～6日の夏合宿で商品開発のワークショップを実施し、具体的に商品化可能な製品をリストアップしました。全部で15個の商品化のアイデアが出た中で、実現可能性の高いものをリストアップしました。におい袋、飴、石鹸、入浴剤、ドレッシング、カステラ、芳香剤です。

また夏合宿では、島の耕作放棄地を開墾したすだだいの苗畑の草刈りをし、また島の海岸清掃や集落と集落をつなぐ道路脇の側溝に



かぼすを収穫している様子

溜まった土砂を除去する作業などを実施しました。そうしたボランティア活動を通して、島民の皆様との信頼関係を大きく高めることができたのではないかと考えています。

9月27～30日には、選抜メンバーで島を再訪しました。まず28日の午前中には島の特産品の「かぼす」の収穫をしました。午後は、前回の合宿でリストアップしてあった7品目の商品試作をしました。また紅陵祭の模擬店で、かぼす醤油で味付けしたタコのから揚げを出すことになっていたため、収穫したかぼすを使ってタコのから揚げの試作をしました。29日は引き続きかぼすを収穫し、選別をするなどの作業をしました。

台風19号が襲来する前日の10月11日には、紅陵祭で展示するために飴、カステラ、入浴剤、ドレッシング、におい袋などを東京において再度製作しました。また授業の空き時間に皆で集まって、紅陵祭での展示パネルを製作いたしました。

### 【成果】

#### 一次産業

すだだいはまだ島内でも広く栽培されているわけではない中で、耕作放棄地を開墾し、苗畑を造成したことによって、今後、果樹園を拡大していくための準備ができました。一年目はすだだいの木が雑草に覆われてしまうほどになる中で、定期的に除草するなど、しっかりと管理したことによって、1本の苗木が枯死した他は、59本がすべて順調に育っています。

今後商品開発に成功すれば、自ずとすだだいの需要も高まっていくので、一次産業として引き続き畑を拡大していきたいと思っています。

#### 二次産業

今年度は、カステラ、ドレッシング、飴、におい



島内交流会の様子

袋、入浴剤の五点を試作し、紅陵祭で展示しました。「すだだい」で味付けしたカステラは、適度に酸味の効いて甘酸っぱく仕上がりに、十分に商品として提供できそうだという感触を得ました。ドレッシングも新鮮野菜と非常にうまくマッチングします。来年度には大津島の一般社団法人「磊の島」と提携し、カステラやドレッシングなどを商品化する予定です。また今年度中に島内デザイナーの松田さん(studio hutte)とパッケージデザインも決めます。

また、紅陵祭で大津島産のかぼす醤油で味付けしたタコのから揚げを販売しましたが、私たちが収穫してきたかぼすを絞ったかぼす醤油が絶妙にタコのから揚げとマッチングし、驚くほどの人気を博しました。二日目は、朝からお客が殺到し、三時間で完売してしまうという嬉しい悲鳴が上がりました。このことからかぼす醤油、すだだいの醤油は、十分に商品として提供できるという感触を得ました。紅陵祭では大津島産かぼすを大々的にアピールし、大津島の知名度も上げることができたのではないかと考えています。

#### 三次産業

11月に開催された国交省主催の、全国の島々が集まる祭典「アイランダー」に参加し、既存品であるすだだいピールの販売や島民の編んだかごなどの販売を手伝いました。来年度には毎週墨田区で開かれている青果市場「ヤッチャバ」にて、すだだいのピールに加え自分たちの考案した新商品を販売する予定です。そのため、すだだいの成分調査を実施して、その特性を明らかにし、商品のアピール点を探っていきたくと考えています。島のかぼすやすだだいのそのものの魅力を十分に引き出す商品を開発し、すだだいの魅力とセットで大津島の知名度の向上を図っていきたくと考えています。

## 活動を終えて

**活動を終えて** 私たちの活動は長期的な視野のもとに行われていて、今年度ははじめての一步です。学生チャレンジの資金の有無にかかわらず今後も活動を続けていきたいと考えています。すだだいの畑とそれを利用した商品が根付くまで、ゼミで代々事業を継承し、育てていきたいと考えています。

このプロジェクトの最終目標は大津島の活性化です。人口減少・過疎化・超高齢化に悩む島の中で、島が生き残るためには若い人々の島への移住が不可欠です。すだだいのような島の特産品を売り出して、六次産業化に成功すれば、自ずと島内に雇用の場が生まれ、若年層の移住も行われるのではないかと考えられます。

**島との信頼関係の構築** 学生チャレンジは、「六次産業化」をキーワードに島の活性化を図るというものでした。確かにその活動がメインでしたが、高齢化に悩む島の人々は、普段やりたくてもマンパワー不足でなかなかできない海岸清掃や、島の側溝の土砂の除去など、多くの活動を私たちに期待されていました。

そうしたボランティア経験も私たちにとって貴重な体験になりました。海岸清掃では、漂着するプラスチック・ゴミのあまりの多さに驚き、普段ゼミの場で学習しているグローバルな環境問題である海洋プラスチック・ゴミ対策が、いかに急務な課題かということや、ローカルな現場での取り組みを通して実感しました。

副次的なボランティア活動を通して、プラスチックによる海洋汚染や、イノシシの獣害の深刻さなど、多くの問題を学びました。それを通して、商品開発ということのみでは得られない、島の人々との信頼関係を深めることができました。島でバーベキューをした折など、島民の皆様が多くのお土産を差し入れてくださり、私たちのボランティア活動に感謝の言葉を述べてくださいました。商品開発という表面的な活動成果よりも、もっと大切ではないかと思われる島民の皆様との信頼関係が深まったことが今回の学生チャレンジの最大の成果かも知れません。

信頼関係がなければ、今後の商品開発もうまくはいかないでしょう。すべての活動の基礎となるのは、お互いに信頼し合うことだと実感しました。

**商品化の課題** 「すだだいかステラ」や「すだだいのドレッシング」は完成度も高く、まずは地元のレストランなどで提供するところからはじめてみます。試作した商品の中で、まだ課題を残しているものもあります。飴は、溶けやすいなどの難点が残っています。味については十分に仕上がっていると思います。地元企業と協力していけば商品化可能だと思います。

におい袋は、すだだいの果実が樹木から落ちず、次の年まで継続して実をつけていることから「落ちない果実」ということで、受験生の「御守り」として使えるのではないかとアイデアで開発しました。匂いを嗅ぐと頭もスッキリする効果があると考えています。ただ、今のところ匂いが早く消えてしまいます。匂いが長期持続するように、工夫する必要があります。

入浴剤は、ゆず風呂より強い酸っぱい香りが湯船に広がります。これも人気が出る商品になる可能性があります。しかし、まだ私たちの試作品では、皮の処理がうまくいかないため、完全に湯船で溶けるように改善する必要があります。

今回は商品開発のための十分な時間が取れなかったこともあり、以上の商品は未完成の段階にとどまっています。カステラなどはさらに完成度を高め、未完成のものはさらに時間をとって研究を進めてまいります。最終的に飴や入浴剤の商品化するためには、企業との連携が不可欠になります。私たちのアイデアを地元企業に伝え、地元の特産品として商品化にまで漕ぎつけていきたいと考えています。

**最後に** この間の活動は少しずつ注目を集めるようになってきました。11月2日に東京交通会館で山口県主催のイベント「Y1ターナカレッジ公開講座」が開催されました。その折に山口県の職員の方から私たちのゼミに対し、「この間の活動を紹介してほしい」と講演依頼がありました。県が学生に講演依頼をするということに驚きましたが、ありがたく引き受け、代表の花里が講演に行くことになりました。

11月23～24日には国交省主催の離島振興イベント「アイランダー」に参加しました。これも大津島の方々から信頼されて、企画に参加できることになったので、大変に名誉なことです。この機会でも大津島とすだだいの魅力をしっかりアピールしていきたいと考えています。

## 会計報告

活動資金 300,000円		支出総額 300,498円			
内訳		内訳			
項目	小計	項目	小計		
交通費	新幹線往復(東京～徳山間)×6名分	190,480円	交通費	新幹線往復(徳山～馬島間)×6名分	7,100円
交通費	大津島巡回船往復(徳山～馬島間)×6名分	34,020円	交通費	ふれあいセンター宿泊費×6名分+施設使用料	10,922円
交通費	かぼす輸送費(大津島巡回～拓殖大学)	14,976円	交通費	かぼす輸送費(大津島巡回～拓殖大学)	10,922円
消耗品費	新商品試作材料費	14,976円	消耗品費	新商品試作材料費	14,976円
合計		300,498円			

### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo9.html>



# 「拓大マルシェ」で高尾地域を活性化!

団体名 徳永研究室(道の駅チーム)

代表者 国際学部 国際学科 3年 井ノ口 達也

参加メンバー人数 8名

2019年度(第10回)学生チャレンジ企画実施報告書

## 実施スケジュール

2019年6月5日~10月23日

- 6月5日 打ち合わせ(今後の予定計画)@ログハウス
- 6月12日 打ち合わせ(自治会の方とマルシェ当日までの計画作成)@ログハウス
- 6月19日 打ち合わせ(工学部永見研究室の中村さんと打ち合わせ)@ログハウス
- 6月23日 第1回道の駅設置検討会/団地の視察@館ヶ丘団地
- 7月3日 打ち合わせ(次回の打ち合わせの確認)
- 7月10日 打ち合わせ(自治会の方と7/10の検討会の反省会/夏祭り出店の検討)@館ヶ丘団地
- 7月30日 道の駅滝山の見学/運営者の話@道の駅滝山
- 8月5日 打ち合わせ(自治会の方とマルシェ当日の場所の下見)
- 8月22日 打ち合わせ(自治会の方と当日の流れの確認)
- 8月23日 株式会社アルプスの金丸さんとの打ち合わせ(道の駅についてのお話/マルシェへの出店のお願い)@山梨県防災センター
- 9月4日 打ち合わせ(自治会の方とマルシェの広報についての確認)
- 9月18日 打ち合わせ(自治会の方とマルシェの広報についての確認)
- 9月21日 前日準備(会場設営/みみの下準備/買い出し)
- 9月22日 拓大マルシェ当日
- 10月23日 拓大マルシェ反省会



拓大マルシェ駐車場



三福団子



TVT販売

## 実施内容・成果

### 1.活動の背景

拓殖大学八王子国際キャンパスが位置する、八王子西南部地域(高尾・狭間等)は、八王子市の中で、最も人口減少や高齢化の進んだ地域である。これに伴い、地域の活力が失われつつある。

しかし、八王子市は東京都の中核都市として十分な役割を果たすだけでなく、あらゆる方面へのアクセスを容易にしている。さらに、世界一登山客の多い山で知られる「高尾山」も有しており、西南部地域には、数多くのポテンシャルが秘められている。

そこで私たちは、地域の衰退に歯止めをかけ、西南部地域を活力溢れる地域にするためには、西南部地域に新たな道の駅を設置することが最も効果的であるとの結論に至った。

昨年から上記の活動が始まり、1年間の活動成果を八王子市の主催する学生発表会コンソーシアム八王子にて行った。その成果発表に興味を持った団地の自治会(館ヶ丘自治会)と協力し、道の駅の設置に向け、今年度から本格的に活動が始まった。

本学生チャレンジ企画において、道の駅設置に向けた社会実験と位置付け、9月22日(日)に拓殖大学八王子国際キャンパスの南西に位置する館ヶ丘団地で、1日限定、道の駅体験「拓大マルシェ」を開催した。本学生チャレンジ企画における目的は以下の通りである。

- ①道の駅設置に向け有益な情報を収集し、マスタープラン(MP)策定の参考資料とすること。
- ②地域交流を図り、私たち学生の日頃の活動や拓殖大学について発信すること。

### 2.実施内容

日時:9月22日(日)10:00~15:00

場所:館ヶ丘団地 天候:晴れ

来客数:約150名

運営要員:約75名(館ヶ丘自治会、工藤研究室、徳永研究室、その他)

出店団体:(1)シャインマスカット(株式会社アルプス) (2)三福だんご(岩中電設) (3)クレープ(ビートスイートクレープ) (4)手作り手芸品(館ヶ丘)

丘団地住民) (5)ラオス手芸品(拓殖大学TVT) (6)山梨県富士川町郷土料理(拓殖大学徳永研究室) (7)新鮮野菜(中西ファーム) (8)拓殖大学ダンスサークル (9)大道芸パフォーマンス

本企画において、最も大きな課題であったのは広報活動である。八王子西南部地域の方だけでなく、様々な地域の方に来場してもらうため、以下のような広報活動を行った。

- ①八王子市の広報誌「広報はちおうじ」にて掲載。(全28万部発行+インターネット公開)
- ②ポスターを掲示(京王バス車内20部、市民センター、近隣小学校・児童館・商業施設10部)
- ③館ヶ丘団地全戸に機関紙マンズリー2,100部配布

### 3.活動成果

150名を超える来客があり、八王子市内外からも多くの方が訪れた。10の団体が出展し、子供から大人まで幅広い年齢の方に楽しんで頂けた。また、イベント当日、円滑な運営を図るため、駐車場誘導係、会場案内係等の要員を配置した。イベントは10:00から始まり、開始直後から多くの人で賑わった。野菜は30分ほどで完売し、追加の野菜を手配するほど野菜の売れ行きは極めて好調であった。お昼に近づくにつれて賑わいは増し、子供連れの家族も



クレープ販売



大道芸

多く見受けられた。

拓大マルシェでは、道の駅に求められる以下の3つの機能を満たすブースを設営した。

- ①休憩機能(24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ)
  - ・50席以上の休憩席を設け、無料のお茶を用意
  - ・4ヶ所のトイレを開放
- ②情報発信機能(道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供)
  - ・拓殖大学の学校案内、八王子市の観光案内等のパンフレットを配布
- ③地域連携機能(文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設)
  - ・工学部工藤研究室が主導し、子供用のレゴレクリエーション企画を実施

受付場所を作り、アンケートを参加者に配布し、年齢、移動手段、居住地域等のデータを収集した。このデータは今後、道の駅の設置可能性を検討する際、参考にする。また、アンケート提出を条件に商品が当たるくじを作り、一つでも多くのサンプルが手に入るよう工夫した。

拓殖大学ダンスサークルによるパフォーマンスや大道芸で会場は盛り上がり、終了時間まで人が途切れることなく、大いに盛り上がった。



集合写真



マルシェ受付

## 活動を終えて

アンケートの集計結果を含む、「拓大マルシェ」の総合的な評価は以下の通りである。

### <評価できる点>

- 1つ目は、道の駅設置の判断材料となる、データを入手することができたことである。参加者を対象にアンケート調査を実施し、年齢、居住地域、移動手段などの情報を記入し、83のサンプルを入手することができた。また、車の台数も11台と細かなデータも記録した。この情報収集は、拓大マルシェの目的の一つでもあった。2つ目は、広報活動を通じて、拓殖大学や八王子西南部地域の実情と道の駅の可能性について参加者に広めることができたことである。また、一日限定ではあるが、道の駅体験をしてもらうことで、参加者に道の駅の具体的なイメージを掴んでもらえた。

3つ目は、円滑な運営を行うことができたことである。駐車場誘導係や会場案内係等の要員を配置し、役割分担をしていたことで、円滑に運営できたことである。

### <反省すべき点>

- 1つ目は、休憩機能があまり機能していなかったことである。約50席の屋内休憩スペースを準備し、十分な休憩機能を備えることができたが、実際の使用率は少なく、あまり機能していなかった。2つ目は、地域住民を含む参加者を対象に事前調査を行い、出展内容や販売して欲しい野菜等の情報を把握しておくべきだったということである。予め参加者の意見を詳しく知ることで、よりニーズに沿ったサービスを提供できたと考えられる。

## 会計報告

活動資金 100,000円		支出総額 101,871円	
内訳			
項目	小計	項目	小計
交通費 高尾~甲府(打ち合わせのため特急あずさ)	4,980円	消耗品費 カセットボンベ代	518円
印刷製本費 チラシ印刷代	2,700円	備品費 カウンター/ウェットティッシュ/コインケース	864円
印刷製本費 ポスター印刷代	6,178円	消耗品費 コロ用アルミ/エプロン/使い捨て手袋	1,512円
備品費 テント代金+送料	13,988円	消耗品費 みみ材料費	257円
消耗品費 みみ代	5,164円	交通費 高尾~茗荷谷 2人分	3,130円
印刷製本費 パンフレット/チラシ/アンケート印刷代	15,120円	印刷製本費 紅陵祭りの展示物	720円
消耗品費 みみ代材料費	8,575円	備品費 ビブス	37,520円
備品費 みみ用保冷バッグ	645円	合計	101,871円

その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

備品費	ビブス代金不足分	1,871円
合計		1,871円

その他活動から得た収入【援助金や売上金】

山梨県富士川町郷土料理「みみ」売上	23,700円
TVT売上	14,000円
合計	37,700円

### ▶ ホームページ掲載

○実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>

○学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo5.html>



# 笑って学ぼうSDGs!

団体名 石川ゼミナール

代表者 国際学部 国際学科 3年 唐沢 知奈美

参加メンバー人数 12名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

## 実施スケジュール

2019年6月25日～10月19日

- 6月25日 エンターテインメントエデュケーション講座
- 7月2日 芸人さんを紹介している鷹取さんとの打ち合わせ
- 7月25日 笑下村塾のワークショップ参加
- 8月1日 打ち合わせ
- 8月6日 芸人さんと打ち合わせ
- 8月17日 事前打ち合わせ
- 8月24日 オープンキャンパスにてワークショップ
- 10月19日 紅陵祭にて成果発表

## 実施内容・成果

高校生にSDGsを知るきっかけを与え、その認知度を向上させるために、八王子国際キャンパスで開催したオープンキャンパスにてワークショップを行いました。高校生をターゲットにした理由は、これから大学に入ってくる人材であり、拓殖大学全体のSDGsの認知度向上に今後つながると考えたからです。

### 【ワークショップの内容】

SDGsの内容は身近でなかったり、具体的にでなかったり、理解しづらいという懸念がありました。そこで、高校生にも分かりやすくSDGsを学んでもらうために、「お笑い」を織り交ぜ、自然に楽しめて知識も身につく方法を考えました。世界で起きている様々な問題をSDGsの17個のゴールに絡めて〇×ゲーム形式にしてクイズを出題するという方法です。

まず元となる〇×クイズを出題して、芸人さんが〇と×それぞれの主張を面白くした後、高校生に〇か×正解だと思う方の札を挙げてもらいます。最後にSDGsについて知識のあるゼミ生が正解発表と解説をするという流れです。

芸人さんはボーイフレンドのお二人と、なかざわゆうきさんが参加して下さいました。八王子を拠点に活動しているお三方は、とても積極的に参加して下さいました。特にボーイフレンドの黒沼さんは拓殖大学の卒業生であるということもあり、打ち合わせの時点からたくさんの意見を出して下さいました。

### 【問題の内容】

〇×ゲームの内容はSDGsを学べる且つ、身近な問題で意外性のあるものを考え、高校生にも伝わりやすく、印象に残りやすいものにと工夫しました。

例えば、「世界で学校に通えない子供の数は日本人の人口よりも多い。〇か×か。」という問題を出しました。正解は〇で、1億人以上いる日本の人口よりも倍近くの子供が学校に通えていないという現実を解説しました。日本の人口と比較することで、この深刻な問題を身近に感じてもらうことができたと思います。

また、この問題に当てはまるSDGsのゴール5「質の高い教育をみんなに」も同時に紹介し、SDGsへの理解を深めました。

さらに、高校生が自ら正解だと思う〇×ど

ちらかの札を挙げるという参加型のワークショップにすることで、意欲的に学べる形になりました。ただ世界で起きている問題を紹介するよりも、自分で答えを予想することによって、より深刻さを印象付けることができたと思います。

### 【ワークショップを終えて】

当日は開催予定の教室から一段階大きい教室へと変更になり、そのお陰で約60人も高校生とその保護者の方々が参加してくれました。25分間で5問のクイズを出題したワークショップは、たくさんの笑い声であふれ、まさに「笑って学ぶSDGs」の名にふさわしいワークショップになったと言えます。参加してくれた高校生も、「面白かった」「楽しく学べたのでSDGsに興味湧いた」「SDGsという言葉は初めて聞いたが、分かりやすく学べた」などと意見をくれました。今回のワークショップでSDGsという言葉を知ってもらい、興味を持ってくれたことは、大きな成果であったと思います。

また、このワークショップは日本経済新聞の「SDGsを促進する大学」という欄にも掲載していただきました。

## 活動を終えて

当初はなかなか芸人さんとコラボするという案が金銭的にも、お笑いに頼るという点においても、理解されずに苦戦しましたが、最終的には芸人さんと素晴らしいイベントができ、とても嬉しいです。そして、このイベントを通して「高校生のSDGsの認知度を上げる」という目標も達成されたと思います。日常の学校生活では習わなかったり、難しそうというイメージのあるSDGsですが、高校生の皆さんが楽しそうにゲームに参加している様子を見て、このイベントを企画してよかったと感じました。さらに、ただの楽しいイベントで終了したのではなく、参加した学生が社会問題に興味をもってくれたことが一番の成果だと思っています。もし、このイベントが難しいSDGsという単語を大々的に掲げたものであったら、このようなインパクトを与えることは出来なかったと思います。やはり、「楽しい」という楽

観的な感情は多くの方が集まり、世界を変える力があるのではないかと実感しました。その点、「お笑い」という身近で皆が好きなものを通して社会問題を伝えるというやり方は、今まで社会問題に興味のなかった人も巻き込めたのではないのでしょうか。このイベントは一時的な活動です。しかし、今後本学に入学するであろう高校生の方に「SDGsは楽しいものだ」と感じてもらい、興味から活動に繋がればこれは持続的な活動に成りうると思います。小さなイベントでしたが、未来を担う学生にインパクトを与えられたことは決して小さなことではないと思います。今後も私たちは未来へ繋がる活動を通して、世界をより良くしていきたいです。今回のイベントに協力してくださった方々にこの場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

## 会計報告

活動資金	50,000円	支出総額	47,248円	残金	2,752円
内訳		項目		小計	
会合費	笑下村塾参加費			12,000円	
消耗品費	工作用紙			213円	
印刷製本費	印刷費			240円	
印刷製本費	印刷費			420円	
備品費	ワークショップでの〇×のふだ			4,375円	
委託費	芸人さんへの謝礼金			30,000円	
				合計	47,248円

### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo3.html>



笑下村塾のイベント参加の様子



ワークショップ当日の様子 左からボーイフレンドのお二人とゼミ生



ワークショップ終了後の集合写真



学園祭での展示の様子



# 地方創生プロジェクトIN山梨

## ～モモとブドウで繋ぐ未来～

団体名 **山梨プロジェクトチーム**

代表者 国際学部 国際学科 2年 佐藤 渚

参加メンバー人数 30名

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

### 実施スケジュール

2019年5月18日～10月19日

- 5月18日 桃、ブドウの栽培を学ぶ
- 6月29日 桃、ブドウの栽培を学ぶ 山梨県立大学でイベントの打ち合わせ
- 7月22日 拓殖大学にてプレゼンテーションの打ち合わせ 電話でShortLegs様と打ち合わせ
- 8月3日 山梨県立大学にて打ち合わせ
- 8月31日 拓殖大学にてプレゼンテーションの打ち合わせ
- 9月10日 拓殖大学にて最終確認
- 9月11日 マイナビイベントNEXT AGRI PROJECT 2019にてプレゼンテーション
- 10月19日 紅陵祭にて中間報告



摘粒作業の様子



モモ農園 摘蕾作業の様子



マイナビイベント NEXT AGRI PROJECTの登壇の様子

### 実施内容・成果

現在、山梨県で耕作放棄地が問題になっているという現地の方の声を聞き、問題に取り組みながら山梨県の活性化につながる活動はできないかという学生の小さな思いから始まったプロジェクトです。当プロジェクトは学生の力で耕作放棄地にモモ、ブドウの栽培を行いビジネスにつなげることを最終目標としています。今回、学生チャレンジ企画では基盤となる栽培方法の習得とプロジェクトをもっとたくさんの方に知っていただくことを目的に活動を行いました。

#### 【モモとブドウの栽培法の習得】

山梨県のプロ農家であるShortLegs様のご協力をいただき実際にモモとブドウ農園で活動させていただきました。毎月山梨県に足を運ぶ予定でしたが、日程調整がうまくいかず合計二回の活動となりました。桃農園ではよい品質の桃を作るための摘蕾作業、桃を虫から守るための袋掛け作業、モモに色を付けるための袋除作業、モモの色付きをよくするための反射シート敷きを学びました。ブドウ農家では摘粒作業を中心に教わりました。また、ブドウの詳しい説明をしていただきました。実際に作業をしていく中で果実を育てること

がこんなにも手間暇がかかり、繊細な作業が多いということを実感し、おいしいものを作るにはそれだけの努力と時間、労力が必要だということに身に染みて感じました。また、プロの農家の方から作業工程を教わるだけではなく農家として働くということについて生の声を聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。農業コース生にとっては果樹という新しい分野を学ぶことで将来の選択肢も大きく広がり、今後の授業でも大いに生かすことができるはずです。

#### 【マイナビイベント NEXT AGRI PROJECT】

今回、マイナビイベントNEXT AGRI PROJECTに参加し、三つの活動を行いました。まず一つ目はプレゼンテーションです。Power Pointを作成し約60名の農業関係の企業、学生が集う中、登壇させていただきました。我々からの視点と経験から皆様にお話しすることができたので我々の思いを大いに伝えることができたのではないかと思います。二つ目はブースでのプロジェクト説明と資料の配布です。プレゼンテーションを見て興味を持ってくださった方々が直接ブースへ足を



ShortLegsさん、山梨県立大学の皆様との集合写真

運んでくださった際にはパンフレットを使用しながら説明を行いました。三つ目はブドウ棚の作製です。ブドウ棚というのは本物のブドウを使用しブドウがなる様子を再現したことになります。ブドウ棚を設置することで実際に栽培している様子を目で見て実感していただけるため私たちの活動をより理解していただきました。

今回マイナビイベントに参加し、とても貴重な経験をすることができました。農業にかかわる多くの企業、学生が一度に集うイベントというのは初めての体験であり、様々な視点からお話を聞いたこと、様々な農業のあり方があるということ、農業にはまだたくさんの可能性が秘められていることを実感しました。また、大きな舞台を自分たちで作り上げ、多くの方に聞いていただき、興味を持っていただけたことは今後活動を行っていく中で大きな糧になります。

#### 【活動費について】

今回、活動を行っていく中で参加イベントの変更と栽培を学びに行く回数が減ってしまいました。よって残高68,220円を大学へ返金いたします。



マイナビイベント NEXT AGRI PROJECTぶどう棚作りの様子

### 活動を終えて

今回の活動での反省は二点挙げられます。まず一つ目に全体への共有が不十分であったことです。私たち学生内でもプロジェクトの理解度の差が生まれてしまったがために進行状況などを把握しきれずにスムーズに物事を進めることができませんでした。全体への共有やプロジェクトの進行状況を頻繁に確認することができていたならばこのような問題は生まれなかったと考えます。また、SNSでの情報共有ではなく口頭での状況共有が大切であるということ学びました。

二つ目に日程調整です。当プロジェクトは山梨県のプロ農家であるShortLegs様と打ち合わせ山梨県立大学の皆様の協力が必要不可欠であるため日程調整には苦労しました。農家の繁忙期やテスト期間にかぶってしまうことが多くあったため予定よりも山梨県を訪れることができませんでした。日程調整については早くからの行動を心掛

けることと当日に少しでも時間を抑えられるような工夫をすべきであったと痛感しています。

しかし、このような反省点もありながらも竹下先生、ShortLegs様、山梨県立大学の兼清先生、学生さんのおかげもあり無事にイベントを終えることができました。今回の活動を通じて情報共有の重要性やメンバー内でのコミュニケーションをしっかりとること、早めの行動を心掛けることが大切であることを学ぶことができました。

最後に今回私たち「地方創生プロジェクトIN山梨～モモとブドウで繋ぐ未来～」に携わってくださったすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。私たちの活動はこれから先も次世代に受け継ぎ、山梨県の問題解決の手助けになれるよう努力してまいります。学生ならではの発想力や行動力を盾に一生懸命活動してまいりますので今後ともよろしく願っています。

### 会計報告

活動資金	100,000円	支出総額	31,780円
内訳		残金	68,220円
	項目		小計
印刷製本費	イベント当日 配布資料		20,000円
交通費	ShortLegs様と打ち合わせ イベント当日		11,780円
		合計	31,780円

#### ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo7.html>



マイナビイベント NEXT AGRI PROJECTのぶどう棚での撮影



# 八王子市館ヶ丘団地の自治会を支援するデザインプロジェクト

団体名 CDS(Community Design Supporters)

代表者 工学部 デザイン学科 4年 加藤 岳大

参加メンバー人数 13名

2019年度(第10回) 学生チャレンジ企画 実施報告書

## 実施スケジュール

2019年5月8日～10月29日

- 5月8日 自治会にシャッターともくもく広場に関するアイデア提案
- 5月27日 もくもく広場に使用する道具の検証
- 6月14日 シャッターアートに使用する型紙の検証及び試作
- 7月4日 検証及び試作の結果を踏まえたアイデアの提案
- 7月17日 シャッターアートに使用するアイテムの検証及び試作
- 7月29日 自治会シャッターアート右側 アイテムの制作
- 7月30日 自治会シャッターアート右側 本制作～31日まで
- 8月20日 まごころ保育園のワークショップで使用使用するキャラクター「けろりん」の試作
- 9月3日 まごころ保育園で行うワークショップ「けろりんつくる」準備日
- 9月5日 まごころ保育園で行うワークショップ「けろりんつくる」の開催日
- 9月17日 自治会と「木に顔つけよ」ワークショップのミーティング
- 9月19日 もくもく広場で行うワークショップ第一回「木に顔つけよ」の準備日(～20日まで)
- 9月22日 もくもく広場で行うワークショップ第一回「木に顔つけよ」の開催日
- 10月18日 紅陵祭(ワークショップ)
- 10月22日 もくもく広場で行うワークショップ第二回「木に顔つけよ」のミーティング
- 10月23日 自治会シャッターアート左側アイテムの制作
- 10月28日 もくもく広場で行うワークショップ第二回「木に顔つけよ」開催(～30日まで)
- 10月29日 自治会シャッターアート左側 本制作

## 実施内容・成果

八王子国際キャンパスに隣接する館ヶ丘団地(1975年開設)は、人口3,000人強、平均年齢70歳超、高齢化率(65歳以上人口の割合)56%、そのうち約半数が独居者という「超高齢化団地」である。かつては1万人超が暮らし、4つの街区ごとに自治会が存在していたが、高齢化・人口減少を背景として自然消滅または解散に至った。2010年3月、団地の課題を共有する住民有志により、新たに「館ヶ丘自治会」が発足した。会員数は徐々に増加し、現在500名弱を数える。同自治会は基本的な自治活動のみならず、地域サポーターの協力を得て、団地内自転車タクシー(「八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘」との協働、2013年1月～)など、特色ある活動に取り組んでいる。その一方、発足時より役員人材や財政面の問題を抱えており、活動を平易に伝える会報の発行など、会員増のための工夫を重ねているが、その効果は限定的とのことであった。私たちCDSは、同自治会と協働し、1)団地内公園「もくもく広場」をフィールドとした地域コミュニケーションの活性化プロジェクトと、2)空き店舗の多い団地商店街のシャッターを活用した地域の魅力向上プロジェクト、の2つに取り組んだ。

### 1) 団地内公園「もくもく広場」をフィールドとした地域コミュニケーションの活性化プロジェクトについて

少子高齢化により、もくもく広場を訪れる団地住民や団地外の子どもの減少していることに着目し、同広場をフィールドとした「公園の魅力再発見ワークショップ」を実施することとした。まず、館ヶ丘団地内『まごころ保育園』の協力を得て、9月5日(木)にレゴブロックを使用した園児向けワークショップ『けろりんつくる』を実施し、もくもく広場に住む妖精オリジナルキャラ『けろりん』を子どもたちと一緒に制作した。続いて、9月22日(土)に、もくもく広場をフィールドとした子ども向けワークショップ『木に顔つけよ』を実施した。参加者は広場内の木を選び、キャラクターを設定し、その目と口をレゴブロックで制作、テグスで木に取り付けた。当日は広場に園児が制作した『けろりん』が飾られ、多くの関係者の来場を得ることができた。以上の両ワークショップの連動によって、もくもく広場に非日常的な魅力を付加するとともに、来場した団地住民と子どもたちの間に、間接的なものを含めたコミュニケーションを誘発させることができた。最後に、今後のワークショップ継続性を高めるため、10月28～30日の3日間、もくもく広場でCDS主体の『木に顔つけよ』を実施し、必要な手順やツール等について検証した。その際、普段と異なる公園を住民の方々に楽しんで頂くことができた。

### 2) 空き店舗の多い団地商店街のシャッターを活用した地域の魅力向上プロジェクト

団地内の空き店舗数は5件(2019年10月31日時点)あり、賑わいが失われている。早々に人気が無くなる夜間においては、まさにシャッター街といった寂しさである。これらの印象を和らげるとともに、商店街に新たな魅力を付加するため、シャッターを華やかに装飾することとした。その呼び水として、自治会事務局のシャッターを使わせて頂いた。シャッターは左右が独立した一般的なス

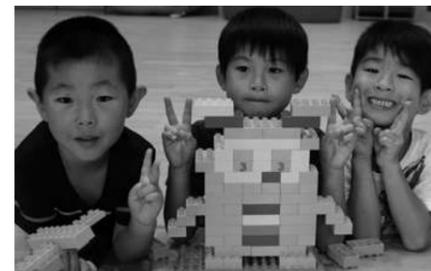
チール製で、団地を管理するURの所有物である。そこで、容易に原状復帰できることを前提に、水拭きできるクレヨン筆記具『kitpas』を画材として採用した。このことにより、今後のデザイン変更を容易にし、定期的な住民参加を促すことができる。完成したシャッターアートは、向かって右側が自治会活動を象徴する複数のアイコンで、左側が音符フレーズとなっている。閉まっても、活動時の雰囲気伝えることが目的である。どちらの描画も、住民が気軽に参加できるよう、厚紙をレーザーカットした型紙によるフラット・デザインとした。1つを10～15分で描ける。その他の主なツールは、型紙を保持する磁石である。自治会関係者はもちろん、多くの住民から好評を頂いており、今後も他のシャッターに展開していく予定である。



ワークショップ「木に顔つけよ」試作



まごころ保育園ワークショップ「けろりんつくる」制作



まごころ保育園ワークショップ「けろりんつくる」完成

## 活動を終えて

概ね当初の予定通り実施することができ、自治会の方々含め多くの団地住民から高い評価を頂くことができた。個別に見ていくと、スケジュールの

調整不足や段取りの確認不足などの反省点や改善点があったと思うが、そのことを含め今後の支援に役立てていきたいと考えている。

## 会計報告

活動資金 190,000円		支出総額 190,000円	
内訳		内訳	
項目	小計	項目	小計
消耗品費 ワークショップ用 ニッパー等	6,497円	消耗品費 シャッターアート用 キットパス	13,200円
ワークショップ用 テグス等	767円	シャッターアート用 キットパス	1,428円
ワークショップ用 レゴデュプロ	55,689円	シャッターアート用 A2厚紙等	8,363円
ワークショップ用 レゴデュプロ	17,485円	シャッターアート用 マグネット等	2,268円
ワークショップ用 レゴデュプロ	16,446円	シャッターアート用 テープ等	913円
ワークショップ用 レゴデュプロ	30,462円	印刷製本費 ワークショップ成果報告用冊子(一部自己負担)	33,572円
シャッターアート用 キットパス	2,910円	合計	190,000円

その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

印刷製本費 ワークショップ成果報告用冊子	1,271円
合計	1,271円

## ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo2.html>



ワークショップ第一回「木に顔つけよ」

ワークショップ第二回「木に顔つけよ」



CDS一同



館ヶ丘自治会とミーティング



シャッターアート制作(左側)



シャッターアート制作(右側)



シャッターアート完成



# 協働を目指した日本語教育の実践と支援 ～モンゴルで日本人大学生とモンゴル人高校生が 1か月交流する日本語夏期講習を舞台に～

個人部門

塚原 彩佳

言語教育研究科 日本語教育学専攻 博士前期課程2年

2019年度(第10回)  
学生チャレンジ企画  
実施報告書

## 実施スケジュール

### 2019年3月上旬～10月20日

- 3月上旬～ 【準備】インターンシップ参加メンバー募集に関する意見交換及び打ち合わせ(メールにて)
- 3月28～30日 【事前学習】新モンゴル小中高一貫学校卒業生による勉強会聴講@衆議院会館他
- 3月末～ 【準備】新モンゴル小中高一貫学校の教員から生徒の様子をヒアリング(メールにて)
- 4月中旬～ 【準備】インターンシップ参加メンバー募集手伝い(SNS、メールにて)
- 5月4日 【事前学習】ハワリンパヤル2019参加@光が丘公園
- 5月25、26日 【事前学習】日本語教育学会聴講@つくば国際会議場
- 6月8、9日 【事前学習】異文化間教育学会聴講@明治大学中野キャンパス
- 6月中旬 【準備】渡航に先立ち訪問先・新モンゴル小中高一貫学校への必要書類作成、提出
- 7月上旬～ 【準備】新モンゴル小中高一貫学校の教員と相談の上、授業カリキュラムや教案、教材の選定、作成
- 7月25日 モンゴルへ渡航
- 7月29日～8月23日 【本活動】新モンゴル小中高一貫学校第17回サマースクールにて企画実施@モンゴル
- 8月16～19日 観光ビザ延長手続き@中国
- 8月24～27日 後片付け手伝い
- 8月28日 日本へ帰国
- 8月下旬 新モンゴル小中高一貫学校指定様式によるサマースクール報告書作成(節単位)
- 9月12日 母校の教授にごあいさつ(帰国報告及び宣伝のための打ち合わせ)
- 9月21日 新モンゴル学園園長・ガルバドラハ先生による講演会出席@JICA地球ひろば
- 9月24～29日 朝日教育会議用PPTの作成
- 9月27～30日 紅陵祭で使用するワークショップ内容・映像コンテンツ、展示物のプレスト
- 10月1～13日 紅陵祭で使用する映像、ワークショップ資料、展示物作成

## 実施内容・成果

私立新モンゴル小中高一貫学校が夏休みを実施しているサマースクールと呼ばれる夏期講習にて、社会貢献・ボランティア活動、国際交流への取り組みというテーマで貢献する取り組みを実施した。

この学校は2000年に開校し、「モンゴル国の発展に寄与する人材の育成」を教育目標に掲げている。1期生の卒業生から今まで400名以上の人が日本の大学や高等専門学校などに直接留学しており、卒業後も同窓会のネットワークが強くモンゴルの今後を真面目に話し合える仲間ができる学校である。

一般的なモンゴルにおける日本留学の人数については、経済や技術が発展した国で学びたい人が多く、専門分野の研究レベルが高いことが動機になっている。留学生数は3,000人を超えており、モンゴルの人口1万人あたり10.15人が日本に留学している。

そこで、私は社会的インパクトを与える存在になろうとする高校生が日本語を習得することは、SDGsの4.3「全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする」ことにつながると考えた。生徒の日本語学習モチベーションと日本語力のさらなる向上に携わりたいと思い、日本留学試験日本語科目の対策授業の実施に取り組んだ。この試験は留学生版センター試験のようなもので、私は聴読解を担当した。正答率を上げるには語彙力、読解力、メモを取る力、文字情報と音声情報の統合技術が必要である。授業実施および教材選定に先立ち、実践報告や教授法

の理論の先行研究となる文献を探した。そこで読解力を高めるためには「再話」という方法があることがわかった。また、中級レベルの語彙、文法、漢字の基礎固めおよび資格情報と聴覚情報の統合に役立つ方法として「ディクトグロス」というものがあることもわかった。これらの手法を取り入れた授業を行った結果、生徒からの最終アンケート(回答数20)では、「日本語力が伸びましたか」という問いに対し、四件法で「とてもそう思う」と答えた人が13人、「そう思う」と答えた人が7人、「授業の内容が役に立ちましたか」という問いに対し、同じく四件法で「とてもそう思う」が12人、「そう思う」が8人だった。また、ペアやグループ活動は「意見交換ができてよかった」「他の人に説明することで自分の日本語能力もわかったし、色々な言い方、言葉も学べた」と授業のねらいを掴んでくれた生徒のほか、「(学習者がモンゴル人同士の授業だけども)日本語で話す機会になった」、「相手にわかりやすい日本語は何かわかった」、「他の人の勉強に対する姿勢に刺激を受けた」といった本授業に直接かかわること以外のプラスの要素を持つフィードバックも得られた。

上記のほか、サマースクールの特徴は日本各地から学部生10名ほど集まり、先生になることである。1か月の滞在期間中、日本人大学生はモンゴルへのお客さんとして扱われる一方で、観光客の立場を離れ、先生としてモンゴル人高校生の中に入り込むためモンゴルの生活を体験し、異文化間理解を深めていく。そうすることで、生徒の日本語能力向上や日本への興味・関

心度合いが向上すること、大学生のモンゴル滞在が有意義になることは歯車のように強固な関係になっていく。

このような立場の変化の過程は、SDGsの4.7「グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献」につながると思われる。

私は日本人大学院生・元新モンゴル小中高一貫学校の教員として、学部生とモンゴル人教師の指導教官との間を取り持つ役割を担った。初めのうちは、初対面の大学生にどのように接するか、また私は元教員であり正式な指導教官ではないため、どこまで関わるべきか立ち位置に苦悩した。しかし、モンゴル人の先生方とも小まめにやり取りを重ねることで動き方が見えてきた。結果として、モンゴル人の先生が忙しくしていても、大学生が頃合いを見計らって自ら相談しに行ってもらうのがよいと判断した。なぜなら、日本人大学院生が将来的に日本語教師として海外の日本語教育に携わるのであれば非母語話者の先生とコミュニケーションを図ることは必須である。そのような体験もできる場だからである。私はあくまでも陰ながらサポートすることに留めた。具体的には、夕食の食材を買い出しや寮にいるとき、週末などを利用し、モンゴル人の先生に確認・相談したいことの洗い出しを手伝ったり、モンゴル人の先生からの指示が何を意図するのか解釈を手伝ったりすることにした。また、私が担当している聴読解の授業を見に来てもらい、気になったことの質問・感想を言ってもらう中で、大学生が自分の授業をどのように捉えているのか聞くようにした。教師として様々な立ち振る舞いがあることを確認し、選択肢を広げるように努めた。

大学生たちからは、「今までの自分が生徒だった時の教育経験を振り返って、当時なぜ先生があんなことをしていたのか分かった気がする」「クラスに入ると言語的にマイノリティになってしまえば後れしがちだが、先生として叱らなければならないこともあることがわかった」「もっと色々な先生の見学に行けばよかった」といった気づきや学びの声が聞かれた。生徒たちからは、日本や日本語への興味・関心が高まったというアンケート結果が得られた。また、モンゴル人の先生からも軌道に乗るまでの間、意見交換ができたことに対しお礼の言葉をいただいた。

## 活動を終えて

本活動を終えて、私自身学んだことは大きく3つある。まず1つ目は、自分の過去を振り返れたことである。日本語の授業のほか、放課後には「日本人の先生と話そうシート」という宿題の手伝いを率先して行うことで、12年生の生徒全員と話した。生徒からなぜモンゴルに来たのか、モンゴルを初めて見たときどう思ったか、新モンゴル小中高一貫学校に来ようと思ったきっかけなどを質問されることで、モンゴルへの理解と日本文化・社会、自身への振り返りができた。また、私自身も生徒のひたむきな姿勢からエネルギーをもらった。生徒が頑張ると同様に私も今そして大学院修了後も頑張っていかなければならないと思った。

次に2つ目は、異文化間の媒介役になる難しさである。先述の通り、私はモンゴルで生活し、働いたことのある日本人である。どちらの文化的特徴も理解できているがゆえに互いの文化がどのように相手に映るのかも知っているため、自分の立ち位置が明確化できずどのように間を取り持つべきか悩ん

だ。しかし、在留資格が新たに追加された今日、特に国内においては都度悩むことに多くの時間を割いていられないことに気が付いた。私は今回の経験を通して、日本語教師という仕事は、日本語を教えるだけでなく、関係が構築されていない初期の段階で外国人との接触が日常的ではない日本人と外国人との間を橋渡しする役であることがわかった。日本語教師として他の日本人にどのように関わるか考えておかなければならないと思った。

そして3つ目は、大学院生という研究者の一步として、研究や実践報告に必要な足掛かりを掴めたことだ。今後は、今回使用した文献をもとにRQを立て、調査したいと思った。日本語教育全体として海外の中等教育現場からの研究は圧倒的に少なく、中高生ならではの成長や発達を捉えた実践を作り出すこと、どのような実践をなぜ作るのか教師が考えるための枠組みや理論が必要だと言われている。中等教育段階の日本語教育を盛り上げられるようになりたいと改めて思った。

## 会計報告

活動資金 50,000円		支出総額 75,002円	
内訳			
項目	備考	小計	
交通費	自宅～成田空港 電車・バス代 自宅～異文化間教育学会@明治大学 自宅～ハワリンパヤル@光が丘公園 自宅～新モンゴル学園園長講演会@JICA地球ひろば 自宅～2019年度日本語教育学会春季大会参加費@つくば国際会議場	一部定期券利用	7818円
会費	2019年度日本語教育学会春季大会参加費@つくば国際会議場(入会金含む) 第40回異文化間教育学会参加費 新モンゴル学園園長講演会参加費	懇親会代は自己負担	21,504円
資料雑誌費	教材費	266,243tg(レート1円24.35tg)	24,782円
委託費	観光ビザ更新にかかわる手数料及び仲介料	460,200tg(レート1円24.35tg)	18,899円
備品費	PC用リモートコントローラー		1,999円
合計			75,002円

### その他活動資金以外にかかった経費【自己負担分】

項目	備考	小計
交通費	成田空港～チンギス・ハーン空港航空券代	先方に活躍を認めていただき、報償となった 87,510円
備品費	現地用携帯電話購入代金、通話・通信料	415,000 t g (レート1円24.35tg) 17,043円
旅費	寮代	250,000tg(レート1円24.35tg) 10,266円
備品費	ノートパソコン購入代金	130,554円
消耗品費	名刺代	3,000円
合計		248,373円

## ▶ ホームページ掲載

- 実施企画書 ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/kikakusho.html>
- 学チャレレポート ..... <http://gakuchalle.takushoku-u.ac.jp/repo10.html>



12年生2クラス合同授業



町案内をしてくれた12年生と他大学のインターン生と夕食



生徒たちがグループワークに取り組んでいる様子



毎年恒例の校外学習。今年はモンゴル国立大学の研究施設にて再生可能エネルギーの話を行い、ソーラーパネルを見学した。



新モンゴル小中高一貫学校の校長・ナランバヤル先生と



# 成果報告発表会

## 採択団体による成果報告発表会 チャレンジ大賞、チャレンジ賞、奨励賞が決定

12月7日(土)、文京キャンパスにて、採択団体による成果報告発表会が行われました。今年度の活動の集大成として10分間の発表と実行委員からの質疑応答で、活動の成果を報告しました。潜道女子実行委員長は全体の講評として、「学生の皆さんの大いなるチャレンジと成長をみる事ができました。半年間の活動、お疲れさまでした」と締めくくりました。最終結果は、チャレンジ大賞(グランプリ)1団体、チャレンジ賞(準グランプリ)3団体、奨励賞2団体が決定しました。



鄭・佐藤ゼミ連合



鄭ゼミナール Aチーム



鄭ゼミナール 3年Bチーム



OMOTENASHI T-girls



関ゼミナール 大津島チーム



成果報告発表会での様子



徳永研究室(道の駅チーム)



石川ゼミナール



山梨プロジェクトチーム



CDS(Community Design Supporters)



塚原 彩佳

### 採択団体メンバー 一覧

<b>鄭・佐藤ゼミ連合</b>			
商学部 経営学科	3年 姜若琦	政経学部 経済学科	2年 王心怡
商学部 国際ビジネス学科	3年 劉書言	政経学部 経済学科	2年 宋宇慧
商学部 国際ビジネス学科	3年 鹿山健京	商学部 会計学科	3年 林君宜
商学部 経営学科	4年 長谷部一弥	商学部 経営学科	3年 応佳瑛
商学部 国際ビジネス学科	3年 袁子尧	商学部 経営学科	1年 範雷英
商学部 会計学科	4年 吳赫奕	政経学部 経済学科	1年 王嘉敏
商学部 国際ビジネス学科	3年 宋奕	商学部 国際ビジネス学科	3年 東福 里奈
商学部 国際ビジネス学科	4年 黒澤 稔	政経学部 経済学科	1年 李夢園
<b>鄭ゼミナール Aチーム</b>			
商学部 国際ビジネス学科	3年 鈴木 みなみ	商学部 国際ビジネス学科	3年 和田 悠希
商学部 国際ビジネス学科	3年 白木 健介	商学部 国際ビジネス学科	3年 羽根田 英
商学部 国際ビジネス学科	3年 黄苗	商学部 国際ビジネス学科	3年 田口 裕介
商学部 国際ビジネス学科	3年 小山 実優	政経学部 経済学科	3年 小田島 優美
<b>鄭ゼミナール 3年Bチーム</b>			
商学部 国際ビジネス学科	3年 平 祐実	政経学部 経済学科	3年 及川 真桜
商学部 経営学科	3年 飯田 柊志	政経学部 経済学科	3年 高橋 昂平
商学部 国際ビジネス学科	3年 松川 拓己	政経学部 経済学科	3年 横江 千里
商学部 国際ビジネス学科	3年 宮田 美紅		
<b>OMOTENASHI T-girls</b>			
政経学部 経済学科	2年 小谷 汐音	商学部 国際ビジネス学科	3年 岡本 愛葉
政経学部 法律政治学科	2年 櫻井 里奈	商学部 国際ビジネス学科	3年 黄 曉慧
商学部 経営学科	2年 阿部 美乃里	商学部 国際ビジネス学科	3年 小山 実優
商学部 経営学科	2年 石毛 瑞輝	商学部 国際ビジネス学科	3年 鈴木 みなみ
商学部 経営学科	2年 熊木 悠希子	商学部 国際ビジネス学科	3年 羽根田 英
政経学部 経済学科	2年 下村 彩乃	商学部 経営学科	3年 近藤 いづみ
政経学部 法律政治学科	2年 柳田 莉奈	商学部 経営学科	4年 高木 凛里
政経学部 法律政治学科	2年 山下 桃果	商学部 経営学科	4年 副田 あり
政経学部 経済学科	2年 花里 涼	商学部 国際ビジネス学科	3年 柳田 真葉
商学部 経営学科	3年 浅野 友佳	政経学部 法律政治学科	4年 落合 瑞季
商学部 経営学科	3年 八久 莉奈	政経学部 法律政治学科	4年 関口 菜香
商学部 国際ビジネス学科	3年 MARIANTI	政経学部 法律政治学科	4年 佐野 季奈

<b>関ゼミナール 大津島チーム</b>			
政経学部 経済学科	2年 富永 一帆	政経学部 法律政治学科	3年 森田 圭祐
政経学部 経済学科	2年 花里 涼	政経学部 経済学科	4年 岡沼 美幸
政経学部 経済学科	2年 鹿山 天秀	政経学部 経済学科	4年 木下 美優
政経学部 経済学科	2年 小阪 祐太	政経学部 経済学科	4年 中川 綾乃
政経学部 経済学科	2年 上原 司	政経学部 経済学科	4年 森川 侑果
政経学部 経済学科	2年 島田 智敏	政経学部 経済学科	4年 松田 海斗
政経学部 経済学科	3年 横島 一	政経学部 経済学科	4年 松島 和孝
政経学部 経済学科	3年 柏野 太志	政経学部 経済学科	4年 桂田 旬哉
政経学部 経済学科	3年 土屋 友陽	商学部 経営学科	4年 藤澤 賢太郎
政経学部 経済学科	3年 鈴木 幸大	政経学部 経済学科	4年 井上 高宏
<b>徳永研究室(道の駅チーム)</b>			
国際学部 国際学科	3年 井ノ口 達也	国際学部 国際学科	2年 須永 野乃
国際学部 国際学科	3年 濱島 有理	国際学部 国際学科	2年 松本 彩乃
国際学部 国際学科	3年 佐藤 すみれ	国際学部 国際学科	2年 増田 夏希
国際学部 国際学科	2年 長瀬 嶺	国際学部 国際学科	2年 柴田 華野
<b>山梨プロジェクトチーム</b>			
国際学部 国際学科	2年 佐藤 渚	国際学部 国際学科	2年 高桑 千聖
国際学部 国際学科	2年 松橋 聖倫	国際学部 国際学科	2年 白井 乃笑子
国際学部 国際学科	2年 松本 紗綾	国際学部 国際学科	2年 小関 創太
国際学部 国際学科	2年 土佐 涼華	国際学部 国際学科	2年 高島 初月
国際学部 国際学科	2年 藤原 龍一	国際学部 国際学科	2年 安達 亜幸紗
国際学部 国際学科	2年 七尾 瑞唯	国際学部 国際学科	2年 神 大貴
国際学部 国際学科	2年 赤川 准一	国際学部 国際学科	2年 平地 彩奈
国際学部 国際学科	2年 小田 三冬	国際学部 国際学科	2年 稲村 伊織
国際学部 国際学科	2年 田村 アリシア	国際学部 国際学科	2年 谷井 悠太
国際学部 国際学科	2年 二瓶 侑樹	国際学部 国際学科	4年 近藤 愛麗
国際学部 国際学科	2年 李 智優	国際学部 国際学科	4年 岩九 瑞輝
国際学部 国際学科	2年 広末 達也	国際学部 国際学科	2年 菅山 翔太
国際学部 国際学科	2年 奥田 啓士郎	国際学部 国際学科	2年 安部 正樹
国際学部 国際学科	2年 佐々木 啓吾	国際学部 国際学科	4年 奥野 壮大
国際学部 国際学科	2年 水落 竜也	国際学部 国際学科	2年 疋田 恵美里
<b>CDS(Community Design Supporters)</b>			
工学部 情報デザイン工学科	2年 高橋 拓夢	工学部 デザイン学科	4年 藤原 瑞希
工学部 デザイン学科	4年 大冢 拓矢	工学部 デザイン学科	4年 松葉 朋希
工学部 デザイン学科	4年 池原 明日佳	工学部 デザイン学科	4年 アキラ ナヲ
工学部 デザイン学科	4年 香川 遼	工学部 デザイン学科	4年 アフカナズラ
工学部 デザイン学科	4年 加藤 岳大	工学部 デザイン学科	3年 大谷 穂乃可
工学部 デザイン学科	4年 志塚 基	工学部 デザイン学科	3年 坂坂 圭祐
工学部 デザイン学科	4年 中村 蓮		
<b>塚原 彩佳</b>			
言語教育研究科 日本語教育学専攻 博士前期課程	2年 塚原 彩佳		

<b>石川ゼミナール</b>			
国際学部 国際学科	3年 小川 瑠美	国際学部 国際学科	3年 出口 宙呂
国際学部 国際学科	3年 遠藤 涼真	国際学部 国際学科	3年 平賀 千智
国際学部 国際学科	3年 岡本 拓馬	国際学部 国際学科	3年 山下 朝夏
国際学部 国際学科	3年 唐沢 知奈美	国際学部 国際学科	3年 山田 海裕
国際学部 国際学科	3年 佐藤 美優	国際学部 国際学科	3年 吉田 屋由
国際学部 国際学科	3年 瀧本 阿南	国際学部 国際学科	3年 渡辺 健太

### 講評

潜道実行委員長

第10回の記念の年に40件という過去最高の学生さんから応募をいただきました。ありがとうございました。素晴らしい企画が多く、学生の皆さんの自発的な取り組みや意欲、プレゼンテーション力が年々非常に高くなって

いると感じており、うれしく思っております。アイデアだけでなく、それをやり遂げる力を通じて、一人一人の学生さんが成長していく姿を見ていただきました。各賞に関しましては、「どれだけ学生の皆さんが自分たちの力でチャレンジしたか」や「成果物や紅白の中間報告(ワークショップ)の内容」も見させていただき、審査委員会で検討させていただきました。約半年間おつかれさまでした。

んが自分たちの力でチャレンジしたか」や「成果物や紅白の中間報告(ワークショップ)の内容」も見させていただき、審査委員会で検討させていただきました。約半年間おつかれさまでした。

### チャレンジ大賞 CDS(Community Design Supporters)



代表挨拶  
工学部4年 加藤 岳大  
学生チャレンジ企画は一旦終わりますが、後輩に私たちが作ったアイデアをどんどん活用してもらい、今後も館ヶ丘団地をもっと盛り上げていてもらいたいと思っています。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- 一年間頑張ってきて、その成果がでたのでとても良かったです。来年もっと発展できるように頑張ります。
  - 館ヶ丘団地を盛り上げ、自治会のために頑張っているという目的で始めた活動だったので、自治会の方やまごころ保育園の方々のいいリアクション、高評価のリアクションをいただけて、それが一番うれしかったです。
  - 私たちだけで作り上げたものではなく、自治会の住民の方々と一緒に作り上げてきたものです。ともに喜びを分かち合いたいと思います。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 学生生活の中でとても大きなチャレンジができる場です。参加することにごく意義があると思いました。
  - これから社会人になって絶対に経験できないような体験ができます。
  - 学生ならではのアイデアを出し合えて自由度の高い企画ですので、本当に貴重な経験になりました。

### チャレンジ賞 鄭ゼミナール 3年Bチーム



代表挨拶  
商学部3年 平 祐実  
私たちの企画などに参加していただいた方々、本当にありがとうございます。そしてここまで頑張ってくれた6人のメンバーもありがとうございました。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- 半年間、つらいことやいろいろな挫折がありましたが、一つの賞として形にできたことをとてもうれしく思います。
  - 最高の仲間たちと一緒に活動できたことを誇りに思います。
  - 長かったけど、終わってみると早く感じるとても貴重な時間でした。このメンバーでできたことは大学で一番の思い出になると思います。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 私たちを成長させてくれる場所です。仲間の大切さに気づかされる場所でした。
  - 学生生活の中で一番充実した時間。
  - 学チャレは、人生みたいなものだと感じました。

### 奨励賞 徳永研究室(道の駅チーム)



代表挨拶  
国際学部3年 井ノ口 達也  
私たち徳永研究室の活動はこれからも続いていきます。より一層努力して頑張りたいと思います。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- 学生チャレンジ企画が終わった後も引き続き八王子西南部地域の活性化に向けてゼミ生と一緒に頑張っていきたいと思っています。
  - 他のグループが本当にすごくて、賞をとれるかも不安でしたが、奨励賞をいただけて本当に良かったです。自分たちの活動が報われたなと感じました。
  - 成果報告発表会、とても緊張しましたが、最後まであきらめないで伝えることができました。
  - 今日のプレゼンテーションを評価していただうれしかったです。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 筋書きのないドラマです。
  - 自分たちがやってきた活動をゼミの外の人に発表できるいい場所だと思います。また、他のチームの活動や発表も聞くことが勉強になります。今後も機会があれば参加していきたいです。
  - 自分のプレゼンに少しだけ自信をくれました。
  - 普段なかなか関われない人と活動することができたので、とてもいい経験ができました。

### チャレンジ賞 鄭・佐藤ゼミ連合



代表挨拶  
商学部3年 姜若琦  
就職先の方々や佐藤先生、鄭先生のサポートに感謝いたします。ゼミの友人や学友会の友人とみんなで一緒に協力して成し遂げることができました。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- この賞のためにみんなで一年間努力しました。チームメンバーに感謝します。
  - 今回の活動に参加することで、適切なタイミングで他者と意見交換をすることによって、自分が成長できると強く感じました。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 自分たちが企画することで、考える力と実行する力がとても鍛えられる企画です。
  - 自分と違う人の考え方や文化と交流できる場でした。

### チャレンジ賞 OMOTENASHI T-girls



代表挨拶  
政経学部2年 小谷 汐音  
今までの企画に携わってくれた皆様に感謝いたします。これからもOMOTENASHI T-girlsとして女子の満足度向上を目指していきますので、今後ともよろしく願っています。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- いろいろと苦労した部分も多かったですが、結果につながって満足です。
  - すごく実りのある一年間だったと思います。
  - 自分たちでいろいろチャレンジできたので、本当にいい経験ができて良かったです。
  - 学生チャレンジ企画で活動したことや学んだことをもっと外に発信していき、自分たちがもっと成長していきたいと考えています。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 自分たちから行動する重要性や、グループで一つのことを達成する大切さを学べる時間でした。
  - 自分がやりたいことがあったら、実現できる場所があると感じました。
  - 自分からどんどん動いていかないと変わらない場所。
  - 自分がどれくらいできるのかを測れる場。また可能性を広げられる場所だと思いました。

### 奨励賞 石川ゼミナール



代表挨拶  
国際学部3年 唐沢 知奈美  
正直ただけとは思っていません。長い間頑張ってきたと思います。協力していただいた全てのみなさまに感謝申し上げます。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- チャレンジして計画する力がつきました。プロの芸人さんと関わって、いろいろな方のご協力をいただけてとてもいい経験ができました。
  - 学生時代に自信を持って話せるようなことができたいと思います。
  - イチから企画して、採択され、実行して、最後にプレゼンと、こういって過程すべてに携われてとてもいい経験ができました。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 一つ一つの団体が自分たちのやりたいことを示せるいい機会。
  - 学生が持っている夢とかチャレンジ精神っていうのを達成できる場かなと思いました。
  - 石川ゼミの通過点
  - 実践する力をつける場所。



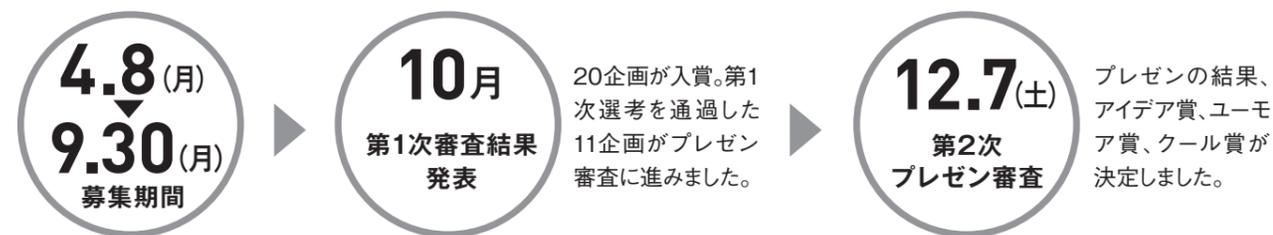
# アイデア部門

## 各賞、入選が決定



第10回目の学生チャレンジ企画を記念し、今年度は「アイデア部門」を設けました。  
 テーマは「2020年の拓殖大学生から、次の世代の拓殖大学生へ」とし、大学がおもしろくなるような活動や  
 自慢したくなるようなモノ、事柄などをSDGsの観点からアイデアにとんだ提案を企画する部門です。  
 52件もの応募があり、第1次審査(書類審査)の結果20企画が入賞となりました。  
 そのうち11企画が12月7日(土)に行われた第2次審査に進みプレゼンテーションを行い、  
 アイデア賞、ユーモア賞、クール賞が決定しました。  
 アイデア賞を受賞した企画は、大学が引き取り、実施に向け検討します。

### アイデア部門 スケジュール



### プレゼンテーションの様子



結果	企画	企画代表者
アイデア賞	大学で農業体験	中村 俊介(デザイン学科4年)
アイデア賞	拓大が初の試みをしよう! ~普段の生活のなかで可能なコンタクトケースの回収~	小久保 秀真(経済学科3年)
アイデア賞	Rainbow Vision ~私らしく、僕らしく~	宮本 理香子(経営学科3年)
ユーモア賞	『踏み出せ!SDGsへの第一歩』	工藤 雅也(経営学科3年)
ユーモア賞	日本一のキャンパスガーデン!	久保 慎佑(デザイン学科4年)
クール賞	THE FIRST MUSLIM-FRIENDLY UNIVERSITY IN JAPAN	ファイサル(デザイン学科4年)
入選	減らそう無駄な電力節電プロジェクト	一色 玲二(経営学科3年)
入選	学食で おいしく食べて ゴミ減らそう	井料田 隼人(経営学科3年)
入選	拓大女子増加プロジェクト	井澤 唯寧(経済学科3年)
入選	ハニー&オレンジ~養蜂入門~	上形 佳州(デザイン学科4年)
入選	キャンパスガーデン	大柳 紗菜(デザイン学科4年)
入選*	YouTubeに拓殖大学の語学マスターという番組を作って世界へ発信する	毛 姜楠(デザイン学科4年)
入選*	生ゴミ廃棄ゼロを目指して~学食の食べ残して豚の飼育~	馬場 峻太郎(経営学科4年)
入選*	ペーパーレス2024	原 ひかる(経営学科3年)
入選*	~みんなでご飯を食べて勉強をしよう!!~ こども食堂塾	小澤 未来(経営学科4年)
入選*	いらぬ服で貧困国支援~送ろう衣服プロジェクト~	末村 雄大(経営学科4年)
入選*	陸の豊かさを守ろう	村松 朋香(国際ビジネス学科3年)
入選*	大人の学び直し研究所	渡邊 明男(商学研究科1年)
入選*	拓大生専用のシェアリングサイクルサービス導入提案	横山 翔汰(国際ビジネス学科3年)
入選*	ゼロ・エミッションの出来る国際大学に!!	西村 綾乃(国際ビジネス学科2年)

※プレゼンテーション無し

**アイデア賞** **宮本 理香子**  
Rainbow Vision ~私らしく、僕らしく~

代表挨拶  
 経営学科3年 宮本 理香子  
 アンケートに協力していただいた職員の方々や応援に来てくれたゼミの仲間と10カ月間一緒に頑張ってくれた仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。賞に恥じないようにさらにチャレンジしていきたいと思っています。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- 4月からこの企画が始まってから、ずっと3人で頑張ってきました。この賞をいただくことができて、とてもうれしく思います。
  - 賞をいただいて、企画を現実に実現できるのかなと思いつわっています。
  - これからも努力と挑戦を続けたいと思っています。
- みなさんにとって学チャレとは?
- 挑戦できる場所です。
  - 自分のアイデアを最大限に発揮できるのだと感じました。
  - 学チャレとは、輝けるチャンスをくれる場所です。

**ユーモア賞** **久保 慎佑**  
日本一のキャンパスガーデン!

代表挨拶  
 デザイン学科4年 久保 慎佑  
 企画が少しわかりにくかった部分もあると思いますが、大学でぜひ検討していただけたらと思います。

- 受賞の感想(メンバーの声)
- 4年の最後で賞をいただいたので本当にうれしかったです。
  - 課題がSDGsの観点からということで、勉強をして新しい考え方を知ることができたので、いい経験でした。今年は学チャレ10回目ということでモチベーションが上がりました。
  - 学生の間にこういう大きい舞台で発表できるということがなかなかないので、ありがたい企画だと思います。
- みなさんにとって学チャレとは?